



# INTEGRATED REPORT 2025

HAMAMATSU UNIVERSITY SCHOOL of MEDICINE

## 浜松医科大学 統合報告書 2025

この報告書は、浜松医科大学の将来構想(ビジョン)に関する目標・戦略の進捗状況及びその検証結果と財務情報を組み合わせて、大学を支えていただいている皆様方へ分かりやすくお伝えできるように心がけて作成いたしました。

**建学の理念** 第1に優れた臨床医と独創力に富む研究者を養成し、第2に独創的研究並びに新しい医療技術の開発を推進し、第3に患者第一主義の診療を実践して地域医療の中核的役割を果たし、以て人類の健康と福祉に貢献する。

**目的及び使命** 浜松医科大学は、医学・看護学の教育及び研究の機関として、最新の理論並びに応用を教授研究し、高度の知識・技術及び豊かな人間性と医の倫理を身に付けた優れた臨床医・看護専門職並びに医学研究者・看護学研究者を養成することを目的とし、医学及び看護学の進展に寄与し、地域医学・医療の中核的役割を果たし、もって人類の健康増進並びに福祉に貢献することを使命とする。

## Contents

### ■ 浜松医科大学とは

- 2 建学の理念、目的及び使命
- 3 学長メッセージ
- 9 浜松医科大学将来ビジョン
- 11 浜松医科大学将来ビジョンの達成に向けて
- 13 第4期中期目標・中期計画

### 《Topics》

- 15 地域医療連携推進法人浜松アカデミック・メディカル・アライアンス
- 16 地域診療教育システム開発センター

### ■ 将来ビジョン達成に向けた取組

- 17 教育
- 19 研究
- 21 医療
- 23 社会連携・地域連携
- 25 業務運営
- 27 2024年度から2025年度の主な施設整備

### ■ 内部統制の整備に関する情報等

- 29 運営組織図、内部統制
- 30 国立大学法人ガバナンス・コードへの対応、研究費の不正使用防止及び研究活動の不正行為防止への対応

### ■ 財務情報

- 31 国立大学法人の会計制度
- 32 財務諸表等の概要
- 35 医学部附属病院の財務状況

### ■ 浜松医科大学基金

### ■ 関係されるすべての皆様へ



## 統合報告書2025 学長メッセージ

浜松医科大学長

**渡邊 裕司**

WATANABE HIROSHI



2025年度4月より浜松医科大学の学長を拝命いたしました。内科研修医を皮切りに皆様に支えられながら教員、理事として長きにわたり本学に奉職してまいりました。今後ともどうぞ、よろしくお願いいたします。

さて、浜松医科大学は昨年度、開学から50周年という大きな節目を迎えたと同時に、国立大学の法人化という大きな変革から20年が経ちました。この長い歩みの中でも本学は、静岡県で唯一の医学部を有する大学として、教育、研究、医療等の各分野において、果たすべき役割を理解し懸命に取り組んできました。しかしながら、現在もなお、本邦やこの地域において少子高齢化、地域による医療格差、医療従事者の慢性的な不足、医療分野でのDXの遅れなど、様々な課題に直面しています。

こうした困難な課題解決に貢献していくためには、本学の努力だけでは限界があり、学生、卒業生、地域住民、地方自治体、各医療機関、産業界等の全ての本学に関係する皆様と連携し、ご理解とご協力を得ながら中長

期的に取り組むことが不可欠であると考えます。

本報告書は、本学の目指す未来(将来ビジョン)をお示するとともに、それに向けての現状の取組を関係者の皆様にご報告し、理解を深めていただくために作成しました。皆様におかれましては、是非ご一読いただくとともに、ご支援・ご協力を賜りますと幸いです。

それでは、取組の詳細については将来ビジョンの「教育」、「研究」、「医療」、「社会連携・地域連携」及び「業務運営」の各項に沿って進捗状況を概説します。



## 教育

学部教育においては、医療人としての基本である「豊かな人間性と高い倫理観」の涵養<sup>かんよう</sup>を重視しつつ、プロフェッショナリズムやチーム医療の理解を深めるカリキュラム改革を一層推進し、他職種と連携しながら患者さんの意思を尊重し、エビデンスに基づいた最善の医療を提供できる人材の育成を目指して取り組んでいます。また、海外臨床実習や国際学術交流の充実を図り、語学力や異文化理解を深めるとともに、新たな価値を創造するアントレプレナーシップ(起業家精神)を持つ人材の育成にも取り組んでいます。

2025年に実施された国家試験において、医師国家試験は合格率97.5%で全国8位、国立大学で3位となり本学としても過去10年間の中で最高の合格率となりました。2023年と2024年は若干合格率が下がっていましたが、これまでの結果を分析して対策を講じたことなどにより、成果を取り戻すことができました。そして看護師・保健師は全て合格率100%と特筆すべき成果を上げています。

大学院教育においては、若手研究・大学院生学生研究支援額の増額を図るなど優れた研究者の育成に力を入れています。また、看護学専攻に臨床に軸足を置いて看護職や学生の教育を行うプロフェッショナル:CNEを養成する教育プログラムを2025年4月に



新たに開設しました。そして助産師国家試験の合格率も大学院の助産師養成コースの開設以来100%を続けています。

大学全体としては、「日本大学ランキング2025」(Times Higher Education)では、分野別ランキングの教育リソースの部門において257大学中2位という高い評価を受けました。教育リソース部門の評価項目は、学生一人あたりの資金、学生一人あたりの教員比率、教員一人あたりの論文数、大学合格者の学力、教員一人あたりの競争的資金獲得数となっており、どれだけ充実した教育が行われる可能性があるかを表しているとのこと。今後も教育リソースの充実を図り、優れた医療職・研究者の育成に向け取り組みます。

## 研究

研究においては本学の特色である「光医学」の強化を中心に据え、様々な研究基盤の拡充を進めています。2024年4月に設立した光医学総合研究所は、分子や細胞から個体までの尖端的イメージング技術の確立とそれらを用いた未知の生命現象の解明、精

神神経疾患を始めとする未解決で有効な診断法、治療法が望まれる疾患の病態の解明と低侵襲な診断法、効果的な治療法の開発を目指しています。

また、地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究施設整備事業(文部科学省)において藤田医科大学の連携大学として採択された「精神・神経病態研究拠点の形成」事業により、2024年12月に光分子解析施設が完成しました。

本施設を拠点として、本学が培ってきた光量子技術と死後脳カダバラボの特長を生かし、独自に開発してきた質量顕微鏡イメージングや3次元電顕解析などの技術により、国際的な光・量子医学技術による創薬支援拠点「光・量子医学創薬支援拠点」として、提案大学が進める創薬の支援を行っていく予定です。

本学は国立大学の中で、早期探索的臨床試験にいち早く着手するなど、トランスレーショナルリサーチを実践してきており、豊富な実績と経験を有しています。この実績に、先程の光医学やイメージングコンプレックス(最新の研究機器と高度な技術スタッフや蓄積したノウハウにより細胞から動物個体までのあらゆる階層の対象を用いて、光技術や分子イメージングの研究を推進できる体制)の技術を加えることで、付加価値の高い早期探索的研究の拠点を形成し、次世代の研究者育成や最新の研究機器整備、研究資金獲得などに積極的に取り組み、また、他大学の情報学部、工学部、さらに薬学部やデザイン学部などにも関係の輪を広げ、製薬企業、医療機器産業、地域企業にも参

加いただくことで、好循環な環境を形成し、浜松発の医療イノベーションを実現したいと思います。

## 医療

診療分野においても引き続き医療安全を最優先に据えながら、最良の医療を提供できるよう職員一丸となって取り組みます。

医療DX(デジタル・トランスフォーメーション)にも取り組み、2024年11月にアマゾンウェブサービスジャパン合同会社と締結したスマートヘルスケアの実現に向けた包括連携協定等の活用により医療DXを推進することで、患者さんへの安全・安心でより質の高い医療提供を実現するばかりでなく、医療現場の負担軽減にもつながると考えています。

さらに、静岡県東部地域への医師派遣も推進していきます。静岡県は県東部を中心に存在する医師少





数区域や県西部にも存在する医師少数スポットでの医師不足及び診療科偏在が課題となっており、また、2027年度以降に予測される医師少数区域等で研修を行う専攻医の急増に、現行のままでは指導医不足により対応できないという課題もあります。

これらに対応し、卒前教育の段階から静岡県東部地区を中心に地域医療の現場を早期かつ十分な期間経験でき、地域医療の教育を充実させる体制の構築及び専門医教育を実施できる体制の構築を目的として、地域診療教育システム開発センターを2025年4月に設立しました。学生教育、初期研修・専門医研修プログラム等を通して、総合診療医や総合診療に深い理解を持つ専門医の養成と医師少数地域等への定着を促進し、医師少数地域等における持続可能な医療体制の構築及び医療の充実に貢献してまいります。

また、昨今の新興感染症の蔓延や大規模地震などの災害時にも医療を継続するための地域医療体制を構築することが重要であり、これに寄与する取組として、浜松医療センターと共に立ち上げた「浜松アカデミック・メディカル・アライアンス」は2025年4月に地域医療連携推進法人として認定を受けました。災害時に相互バックアップ体制が構築されるのみならず、計1,200床規模のグループを作ることで、地域医療の

集約化・機能分化が推進され、希少疾患も含め様々な患者さんに専門的な治療ができるようになり、また、創薬などに向けた臨床研究も促進される見込みです。加えて、双方が人的資源を相互有効活用するほか、医薬品の共同調達などによる経費削減も期待できます。

## 社会連携 地域連携

大学の垣根を超えた新しい産学官連携拠点を形成することを目的として、2024年4月に本学の産学官連携部門の外部法人化により、産学官連携実施法人「はままつ共創リエゾン奏」を設置しました。関連各機関の専門家と協力しながら、企画、研究開発及び製品化までの一連の流れを法人自らが担うことにより、スピーディかつ目標達成を重視した産学連携活動を行うことが可能です。産学官連携実施法人と連携して地域と一体となったスタートアップ企業育成、企業誘致等を行うことにより、ものづくり企業が多数集積する浜松地域を健康医療産業の一大都市にしていこうと目指します。

また、ものづくりのまちである浜松には海外に進出

する企業が非常に数多く存在しているため、地域企業の海外赴任者を健康面でサポートすることにより、地域企業の海外展開を応援したいと思っています。本学が地元企業を医学的に支援し、企業からは財政的支援を受けるようなネットワークを新たに構築し、地域貢献と財務基盤の強化の両立を図ることで、持続可能な地域貢献を目指します。

## 業務運営

物価の高騰・人件費の上昇があり、本学を含む国立大学法人等においては、不可避的な支出増への対応に苦慮している状況です。特に、附属病院においては、国立大学全体で経常損益が285億円の赤字となり、約7割の病院が赤字となっています。

本学では自治体、企業等のご支援・ご協力や教職

員等の努力により、法人全体の収支はプラスの状態にありますが、大学・病院の施設・設備の改修は必要最小限にしつつ、財政状況の更なる改善を図っているところです。

学内研究費支援等による外部資金の獲得促進や寄附講座の積極的な受入れを行い、また、新たな産学官金連携体制の構築による民間企業等からの資金の受入れを促進するなど、財源の多元化に向けて取り組みます。また、経費削減を恒常的に意識し、医療材料や医薬品の見直し等を継続的に行うことに加え、AIやクラウド技術を活用した業務の省力化・効率化を推進することで、安定的な法人運営を目指します。

組織というのは人次第だと思っております。人を育てていくのも大切です、人を尊重することも大切です。そうした一人ひとりの集約が、この地域や社会に貢献する力の源であると考えています。これまで積み上げられてきた本学の実績を基盤に、更なる飛躍を目指してまいりますので、本学に対し引き続き温かいご支援とご理解を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



# 浜松医科大学将来ビジョン



## 建学の理念

本学が建学されたときに設定した、大学の最も根幹となる理念

## 目的及び使命

建学の理念に基づき、時代に合わせ見直したもの

## 将来ビジョン

学長が目的及び使命を踏まえて描く、中長期的な方向性や目指す姿

## 中期目標・中期計画

国立大学法人法で定められる一期6年間に於いて達成すべき業務運営に関する目標とそれを達成するための計画

中期目標・中期計画は、ホームページで公表しています。

<https://www.hama-med.ac.jp/about-us/mid-term-goal/index.html>



本学は、建学の理念並びに目的及び使命を掲げ、その実現に向け建学以来、努力を続けてまいりました。今後も教育、研究、医療及び社会連携・地域連携活動の一層の充実により、地域社会や国内外の諸課題の解決に取り組むため、教学及び業務運営を包含した将来ビジョンを策定いたしました。この将来ビジョンは、学外関係者の皆様には、本学の長期的な方向性や目指すべき姿を示すものであり、学内の教職員には、中期目標・中期計画をはじめとした具体的な施策の拠り所となるものであり、多様なステークホルダーが共通認識を持つことによりその実現に向け大きな推進力となるものです。

今後も、関係者の皆様には、将来ビジョンの達成に向けてロードマップ等を示し、具体的な取組の進捗状況などをご報告いたします。

## 教育

時代が激変する中で、医師、看護師に求められる知識、技術は増すばかりですが、本学は引き続き高度な能力を備えた専門性の高い医師、看護師を育成します。さらに、患者さんの価値観や特性など多様性を理解し、他職種と連携しながら患者さんの意思を尊重した最善の医療を提供できる医療人の育成に努めます。加えて、研究熱心で未知の生命現象の解明や疾患の克服等につながる重要な研究成果を世界に発信できる独創的な医学・看護学研究者を養成するとともに、既存の学術領域を超え、新しい医療技術を社会実装するなど、社会課題に挑戦するアントレプレナーシップ(起業家精神)を持った人材の育成を目標として掲げています。

- 多様性への理解と国際感覚に裏打ちされた豊かな人間性を持ち、患者第一主義のチーム医療を実践できる医療人の育成
- 独創的な先端研究に取り組み、成果を世界に発信できる研究者の育成
- 高度な知識と技術を有し、優れた実践能力を持つ専門人材の養成
- 社会課題に挑戦し、新たな価値を生み出すアントレプレナーシップの涵養

## 研究

本学の強みである光の医学応用に関する最新の研究機器と高度な技術スタッフや蓄積したノウハウからなる研究を推進できる体制(イメージングコンプレックス体制)を活用し、光医学研究を更に推進するとともに、こころの病や遺伝性疾患など、未解明の課題に対して基礎研究者、臨床研究者が一体となって取り組み、治療法の開発につなげます。また、工学・情報学等の他分野の知見を取り入れながら特色ある分野横断的研究を推進し、同時に新しい医療技術・システムの開発やビッグデータ解析により、心身ともに健康な社会の創成を目指します。

- イメージングコンプレックスを活用した先端的な光医学研究の進展
- こころの病や遺伝性疾患等の基礎・臨床が一体となった研究の推進と治療法の開発
- 工学・情報学等との分野横断的研究の推進によるイノベーションの創出
- 新しい医療技術・システムの開発やビッグデータ解析によるウエルネスの創成

## 医療

メディカルDX(医療分野において、デジタル技術を社会に浸透させて人々の生活をより良いものへと変革すること)により、より安全で高度な医療を提供し、医療の質や患者さんの利便性を向上させるとともに、看護師をはじめ、多様なメディカルスタッフの質的向上によるタスクシフト(従来、ある職種が担っていた業務を他職種に移管すること)に取り組み、医療従事者にとってもフレンドリーな環境を提供するスマートホスピタルの実現を目指します。また、専門医や特定看護師など地域医療の中核を担う高度で専門的な能力を有した医療人の育成を強化します。さらに、医療情報の共有化などをはじめ近隣医療機関等との連携により集約化・機能分化を推進しレジリエント(困難に直面した際に適応できるしなやかな強さ)な医療ネットワークの構築に取り組みます。

- メディカルDXにより効率的かつ安全で高度な医療を提供するスマートホスピタルの実現
- 地域医療の中核を担う高度な能力を有した医療人の育成
- メディカルスタッフによるタスクシフトをはじめとする医療従事者の新たな働き方の実践
- 集約化・機能分化によるレジリエントな医療ネットワークの構築

## 社会連携 地域連携

これまで培ってきた、民間企業、地方公共団体、教育研究機関、金融機関等との連携を強化し、革新的な技術の創出とベンチャー企業の育成等により医療を基盤とした産業創出を目指します。さらに、地方創生・価値創造の中核として、地域や他大学と連携し、インクルーシブ(社会的に包容力のある)で持続可能な「ウエルネス(より良く生きるための生活を目指す)社会」の創出に貢献します。

- 産学官金連携推進体制の強化による革新的な技術の創出とベンチャー企業の育成
- 地方創生・価値創造の中核として、地域や他大学と連携したインクルーシブで持続可能な「ウエルネス社会」の共創

## 業務 運営

この統合報告書等を通じて関係者の皆様との対話により本学に期待される機能や役割を理解し、外部有識者の助言をいただきながら、調査研究を充実させ、客観的な指標に基づく大学運営を行います。また、国からの運営費交付金とともに多様な財源の確保を図り、資産運用等の拡大により安定的な財務運営に努めます。さらに、施設・設備整備を通じて、地域医療を支える附属病院の機能強化や、高度な情報技術を基盤とし、キャンパス全体が有機的に連携し、学内のみならず、地方公共団体、産業界、他の教育研究機関等との共創の拠点(イノベーション・コモンズ)となるよう取り組みます。

- 外部有識者やその他ステークホルダーとの対話とエビデンスに基づく戦略的経営
- 財源の多元化や資産運用等の拡大による安定的な財務運営
- イノベーション・コモンズの実現、病院機能の強化とデジタル・キャンパスの推進

# 浜松医科大学 将来ビジョンの達成に向けて

## ～リソースの活用による目標達成への流れ～

本学は、将来ビジョンを掲げ、その達成に向けて様々な活動を実施しています。  
このページでは、2024年度（一部2025年度）に本学が実施した主な活動を中心に5つのビジョン毎に区分し、本学が保有するリソース（人的資本や資金など）が、各ビジョンの目標達成に向けて、どのようなアウトプット（成果）及びアウトカム（成果によってもたらされる効果）を生み出しているか、その流れを表しています。

### 浜松医科大学のリソース

職員数 **2,749名**

#### 【職員数の内訳】

##### 常勤職員

- 教員 413名
- 看護師等医療職員 1,076名
- 事務、技術職員等 215名
- 非常勤職員 1,045名

2024年5月1日現在

固定資産 **390億円**

#### 【固定資産の内訳】

- 土地 64億円
- 建物・構築物 218億円
- 設備 75億円
- 図書 3億円
- その他 31億円

2024年3月31日現在

投資額 **424億円**

#### 【投資額の内訳】

- 教育研究経費 12億円
- 診療経費 196億円
- 外部資金 33億円
- 人件費 145億円
- 施設整備費 20億円
- 一般管理費 5億円
- その他 14億円

2024年度決算より

※各金額は単位未満を四捨五入しているため、計が一致しない場合があります。

医学科・看護学科新カリキュラムの実施  
次世代創造医工情報教育センターの運営  
施設改修等による教育環境の整備 ……P18  
国際交流の充実 ……P18

研究戦略室と5つのWGの活動  
研究支援制度の拡充 ……P20  
光医学総合研究所の運営 ……P20  
新たな研究施設の設置 ……P19-20  
先端機器の導入と共用化の推進

安全で高度な医療の推進  
メディカルDXの推進 ……P22  
臨床教育の充実 ……P22  
新たな医療ネットワークの構築 ……P21

産学官金連携の推進 ……P23  
地域創成防災支援人材教育センターの運営 ……P24  
次世代創造医工情報教育センターの運営 ……P24

ステークホルダーとの対話の実施  
統合報告書の発行  
財源の多元化と資産運用等の拡大 ……P25-26  
施設整備・デジタルキャンパスの推進 ……P27-28

- DXを取り入れた教育の実施
- 海外留学者数 57名  
(前年度比 46名増)
- 国際交流協定 2校締結
- アントレプレナーシップ教育の講義拡充

- 原著論文数606本
- 科学研究費助成事業受入額  
約5億円(前年度比 約11%増)
- 民間等からの外部資金等の受入額  
約4.5億円

- 手術件数 9,021件
- 病床稼働率 88.2%  
(前年度比 約2.3%増)
- 看護師特定行為研修修了者数  
13名(うち院外4名)

- 実用化件数2件
- 医療現場との情報交換会  
58社出席
- 地域連携事業(社会貢献事業)  
15事業へ支援

- 「地域中核・特色ある研究大学の連携による  
産学官連携・共同研究の施設整備事業」  
による新棟の建設(光分子解析施設、ホスピタル・ラボ)
- 定期預金、債券による資産運用収益  
約3,750万円(前年度比 約63%増)

- 患者第一主義のチーム医療を実践できる  
医療人の育成
- 社会課題に挑戦できる起業家精神を持った  
人材の育成
- 高度な知識と技術を有し、優れた実践能力  
を持つ専門人材の養成

- 先端的な医学研究の推進
- 新しい治療法や医療技術につながる  
研究の推進
- 研究成果の社会への実装・還元

- 高度で低侵襲な医療の推進
- 地域医療を担う高度な能力を有した  
医療人の養成
- タスクシフトなどの効率的な働き方による  
医療の質の向上

- 産学官金連携による研究成果の社会還元
- 医療現場のニーズからの製品化への  
期待
- 本学の持つ知見や研究成果による  
社会貢献

- ステークホルダーとの対話による本学  
に期待される機能や役割の理解
- 安定的な財務運営による教育研究機能  
の強化

教育

研究

医療

社会連携  
地域連携

業務  
運営

インプット

主な活動

主なアウトプット

主なアウトカム

5つのビジョン

# 第4期中期目標・中期計画

国立大学法人法により、文部科学大臣から、国立大学法人等が達成すべき業務運営に関する目標（中期目標）が示され、この目標を達成するため6年間（2022～2027年度）の中期計画を定め、文部科学省から認可を受けています。2024年度は、この6年間の3年目に当たりますが、中期計画の達成に向け、順調に進んでおります。今後も関係者の皆様の期待に応えるべく、取り組んでまいります。

## 本学中期計画 [概要]

### I 教育研究の質の向上に関する事項

#### 1 社会との共創

- ・デザイン思考（問題解決においてデザインの手法や過程を活用する考え方）やアントレプレナーシップ（起業家精神）の素養を持った人材の養成
- ・新たな医療産業創出によりインクルーシブ（社会的に包容力のある）で持続可能なウエルネス（より良く生きるための生活を目指す）社会の創生に貢献
- ・新興感染症や自然災害などに対してレジリエント（困難に直面した際に適応できるしなやかな強さ）な地域医療体制の構築

#### 2 教育

- ・学修成果基盤型教育の質の向上を目的として改訂した新しい教育課程の実施
- ・他大学や企業等との連携による数理データサイエンスやAI教育等の充実
- ・アクティブラーニング（能動的学習）形式授業の発展
- ・光医学共同専攻の発展及び看護学専攻（博士後期課程）の新設
- ・高度実践看護コースの充実
- ・国際的視野に立って活動できる人材の育成
- ・海外からの優秀な留学生の獲得

### II 業務運営の改善及び効率化に関する事項

- ・外部有識者の知見を生かした大学経営とガバナンス体制の強化
- ・キャンパス環境の向上を図る施設整備

### III 財務内容の改善に関する事項

- ・民間企業等からの資金の受入れ促進をはじめとする財源の多元化と安定的な財務運営並びに戦略的な学内予算配分の推進

#### 3 研究

- ・基盤経費の積極的措置や研究機器の共用化などによる研究基盤の強化
- ・光医学研究の卓越性を更に伸ばさせた新たな研究拠点の創設やイメージングコンプレックス体制（細胞から動物個体までのあらゆる階層の対象を用いて、光技術や分子イメージングの研究を推進できる体制）の高度化
- ・光医学やナノスーツ技術を応用した分野横断的アプローチによる課題解決並びに新規診断治療法及び治療薬開発等の実用化の推進

#### 4 その他社会との共創、教育、研究に関する重要事項

- ・地域の産学官連携拠点としての中核機能の更なる強化
- ・附属病院における情報技術の活用などによる安全管理体制の強化
- ・高度医療・低侵襲医療の推進
- ・初期研修・専門医研修プログラムの充実
- ・メディカルDX（医療分野において、デジタル技術を社会に浸透させて人々の生活をより良いものへと変革すること）の推進や近隣の医療機関等との緊密な連携による効率的な地域医療体制の構築

### IV 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する事項

- ・客観的データに基づいた自己点検評価
- ・統合的な年次報告書等による情報発信や多様なステークホルダーとの対話の実施

### V その他業務運営に関する重要事項

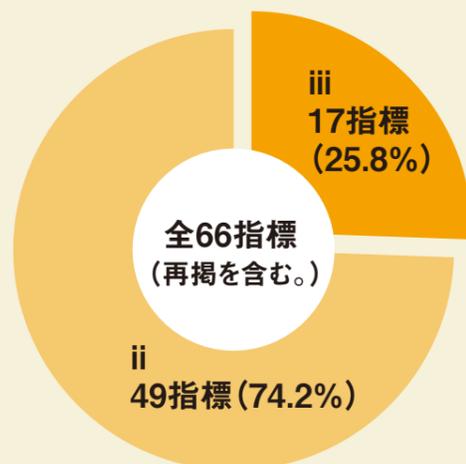
- ・業務の見直しとデジタル技術の活用によるデジタル・キャンパスの推進

## 2024年度実績に関する自己点検・評価結果について

国立大学法人法の改正により文部科学省による毎年度の業務実績に係る評価が廃止された代わりに、各大学における自己点検評価の徹底と公表が求められています。

本学が中期計画の各評価指標（66指標（再掲を含む。））の進捗状況について自己点検・評価を行った結果は次のとおりです。

- iii: 達成水準を大きく上回ることが見込まれる
- ii: 達成水準を満たすことが見込まれる
- i: 達成水準を満たさないことが見込まれる



- #### 教育
- ・アントレプレナーシップ<sup>かみよ</sup>の素養を涵養する講義の実施
  - ・基礎配属終了後に研究室を訪問する学生数の増加
  - ・行動科学、医療倫理等におけるらせん型の新たなカリキュラムの検証
  - ・高度実践看護コースを履修する学生数の増加
  - ・海外に留学する学生数の増加 (P.18)
  - ・基礎配属及び臨床実習でのプレゼンテーションを英語で実施する学生数の増加
  - ・海外学術交流協定校数の増加 (P.18)
  - ・学部学生と留学生との交流行事の開催

- #### 研究
- ・新規イメージング関連機器の導入
  - ・医工連携又は地域企業との共同研究件数の増加
  - ・産学官連携実施法人の設立
- #### 医療
- ・附属病院収益の増加 (P.35)
  - ・研修プログラムを含めた研修医の研修環境の改善
  - ・メディカルスタッフのキャリアアップ支援費の増加

- #### 業務
- ・資金運用益の増加 (P.25)
- ※アントレプレナーシップ…起業家精神  
※括弧内のページ数は関連ページを表しています。



Web 2024年度実績に関する自己点検・評価結果は、ホームページで公表しています。  
<https://www.hama-med.ac.jp/about-us/disclosure-info/eval-info/daigakuhyouka.html>

浜松アカデミック・メディカル・アライアンス(略称:HAMA)は、静岡県西部に位置する本学(医学部附属病院)と浜松市(浜松医療センター)という公的機関同士の参加により、2025年4月1日に静岡県知事の認定を受け設立した地域医療連携推進法人です。

国立大学法人の医学部附属病院と同規模の高度急性期病院が地域医療連携推進法人を設立するという全国初の新たなチャレンジです。高度な教育・研究機能を有する医学部附属病院が参加するという特長を活かし、「診療」「教育」「研究」を連携の3本柱に据え、質の高い医療を地域の皆様に提供することはもとより、地域医療を担う次世代医療人の育成や臨床研究等による将来の医療発展にも貢献していきます。

また、両病院合わせて1,200床規模となるメリットを活かし、経営の効率化や医療資源の適正配置、さらには医療DXを積極的に推進めるとともに、両病院の連携による相乗効果を地域全体に波及させ、地域医療水準の向上に寄与していきます。

5つの特長

- ① 国立大学法人と浜松市という公的機関同士による安心・安全な病院連携
- ② 両病院合わせて1,200床規模を誇る高度急性期病院同士の連携
- ③ 高度かつ専門的な知識・技術を有する医師や医療スタッフが充実
- ④ 国立大学法人の参加により教育・研究分野でも地域医療に貢献
- ⑤ 自然災害や新興感染症に強いデュアル・ホスピタル(二拠点病院)

地域医療連携推進法人  
浜松アカデミック・メディカル・アライアンス



浜松医科大学医学部附属病院

浜松医療センター

理念

静岡県地域医療構想の達成及び医療連携推進区域における強靱な医療ネットワークの構築に寄与

医療連携推進業務

- 地域医療を担う人材の育成  
.....人材の共同育成や人事交流などを促進
- 地域における良質かつ適切な医療の効率的な提供  
.....医療機能の分担など地域において効率的な医療を提供
- 危機に対応できる医療提供体制に寄与  
.....病院相互の補完体制を整備するなどリスク分散を図り、感染症や災害等の危機に対応
- 将来の医療発展に寄与  
.....先進的医療を発展させるため共同研究等を促進
- 経営基盤の安定化  
.....医療機器、医薬品の共同購入や共同交渉、医療機器の共同利用等を実施
- 地域の医療水準向上に寄与  
.....両病院間の電子カルテ情報共有などを進めるとともに、他の医療機関等とのネットワークを構築

自治体や医療機関等との連携を強化し、持続的な医療提供体制を構築

2025年4月、既存の総合診療教育研究センターを改組し「地域診療教育システム開発センター」を設置しました。

役割

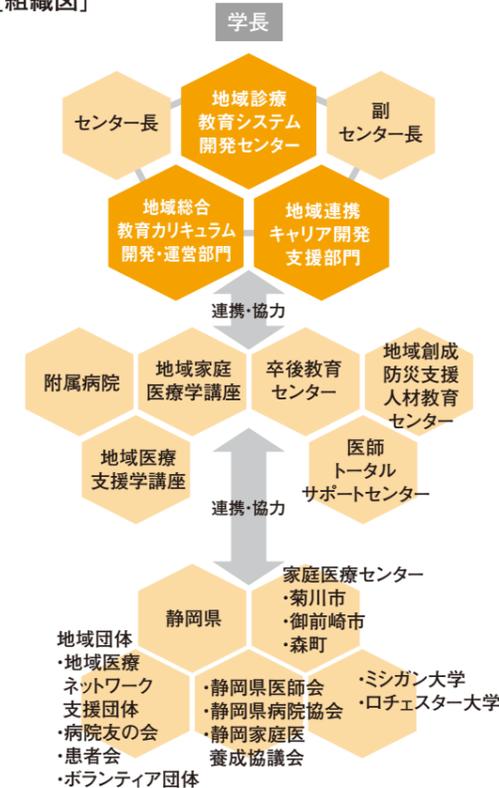
- 地域医療機関における長期滞在型の診療参加型臨床実習の実質化。卒前教育の段階から特に医師の少ない静岡県東部地区を中心に地域医療の現場を早期かつ十分な期間経験でき、地域医療の学生教育及びリカレント教育を充実させる体制を構築する。
- 医師少数区域に専攻医教育機関を基幹病院として複数設定し、総合診療医を含めた各科指導医を派遣し、専門医教育を実施できる体制を構築する。

取組

- 医学教育モデル・コア・カリキュラムに対応した地域医療実習、多職種連携教育を充実・強化
- 学内組織整備・強化
  - ▶ 医学部附属病院に総合診療科を新設(2025年8月1日設置)
  - ▶ 本学総合診療研修プログラムに、家庭医コースに加えて病院総合診療医コースを新設(2025年度専攻医募集開始)

自治体や医療機関等との連携を強化し、各取組を推進することにより、地域に根づく総合的な診療能力を持つ医師及び医師少数区域等にて専門医を育成できる医師が輩出され、持続可能な医療提供体制を構築し、喫緊の課題解決へ向けて前進する。

[組織図]



- 医師多数区域
- 医師中位区域
- 医師少数区域
- 医師少数スポット(医師多数区域内)
- 医師少数スポット(医師中位区域内)

# 教育

## 次世代で輝く医療人の養成

理事(教育・評価担当)・副学長  
梅村 和夫



本学は教育改革と国際交流の推進において着実な成果を挙げる事ができました。医師法改正により、4年次後半から診療参加型臨床実習が可能となり、より実践的な学修環境が整備されました。また、Times Higher Educationが発表した日本大学ランキング2025教育リソース分野で第2位を獲得し、国家試験においても医学科・看護学科ともに良好な結果を収め、本学の教育体制の成果を示すものとなりました。

国際交流に関しては、臨床実習に加えて基礎研究や語学研修の分野でも短期留学を希望する学生が増加し、協定校との連携強化により海外で学ぶ機会が広がっています。同時に海外の協定校からの受入れも活発化し、国際化が一層進展しました。

また、2025年8月に静岡大学工学部・情報学部と本学医学科・看護学科の学生が参加する第3回「医・工・情報連携ワークショップ」を成功裡に開催しました。健康と食について討論と発表を行い、異分野協働による学びの成果を確実に感じる段階に至りました。今後はこの経験を基盤として、さらに高度な連携教育へと発展させていく予定です。

さらに、教育の質を保証する外部評価も進行中であり、看護学科は2024年度に分野別評価を受審し、「適合」をいただいております。また、医学科は2027年度に2回目の分野別評価を予定しており、着実に準備を進めています。これらの取組を通じて、学生一人ひとりが充実した学びと成長を実感できる環境を整え、地域と世界の医療を担う人材育成を引き続き推進してまいります。

### 将来ビジョン

- 多様性への理解と国際感覚に裏打ちされた豊かな人間性を持ち、患者第一主義のチーム医療を実践できる医療人の育成
- 独創的な先端研究に取り組み、成果を世界に発信できる研究者の育成
- 高度な知識と技術を有し、優れた実践能力を持つ専門人材の養成 かんよう
- 社会課題に挑戦し、新たな価値を生み出すアントレプレナーシップの涵養

主なロードマップ	～2023年度	2024年度	2025年度	2026年度～
医学科新カリキュラム		実施		
看護学科新カリキュラム		実施		検証・評価
高度看護実践コースの新設		老年看護学・精神看護学開設		
		看護教育学開設準備	看護教育学開設	
講義実習棟の改修	改修工事		利用開始	
防災士養成講座		開設準備	実施	

### 「医・工・情報連携ワークショップ」の開催

2024年8月22日、静岡大学と本学は「第2回 医・工・情報連携ワークショップ」を開催しました。本ワークショップは、静岡大学工学部及び情報学部と、本学医学部医学科及び看護学科の学生間の交流を図るとともに、医・工・情報の連携による新たな可能性を切り拓くことを目的としています。

今回は「避難所運営のシミュレーションと地域社会の回復に向けたソーシャルソリューションの検討」をテーマに、傷病者の搬送体験や突発的な停電イベントなど、体験学習を取り入れた実践的なプログラムが実施されました。学生たちはそれぞれの専門分野の知識を活かしながらアイデアを出し合い、活発な議論が繰り広げられました。

### 防災士養成講座の開設

2025年度より医学科1年次生を対象とした「防災士※養成講座」を開設しました。

災害時に即応できる医療人材を育成し、地域社会における防災力の強化を図ることを目指します。

※防災・減災のための十分な意識と一定の知識・技能を習得した人材としてNPO法人日本防災士機構が認証する民間資格



搬送体験の様子



2025年4月実施 救急救命講習の様子

### 日本大学ランキング2025 教育リソース第2位

Times Higher Educationが発表した日本大学ランキング2025において、分野別ランキング「教育リソース」で全国第2位にランクインしました。この分野は、学生1人当たりの資金や教員比率などをもとに、どれだけ充実した教育が行われている可能性があるかを総合的に評価する指標であり、本学の教育環境の質の高さが評価された結果といえます。

### 分野別ランキング「教育リソース」

1位 東京医科歯科大学	5位 東京医科大学
2位 浜松医科大学	7位 東北大学
2位 東京大学	8位 京都大学
4位 京都府立医科大学	9位 愛知医科大学
5位 奈良県立医科大学	10位 日本医科大学

### 国際交流の充実

2024年度は、ブラウンシュヴァイク工科大学(ドイツ)、SRM医科大学 病院・研究センター(インド)と新たに学術基本合意書を締結しました。また、学術交流協定校である慶北大学校医科大学及び看護大学(大韓民国)と「第21回慶北-浜松合同医学シンポジウム」を浜松で開催しました。他、海外留学希望者向けに臨床実習・基礎研究・語学研修・看護演習等の様々な留学を推進しており、2025年度は延べ48名の学生が留学する予定です。



第21回慶北-浜松合同医学シンポジウム

- ・海外臨床実習 26名
  - ・国際サービス・ラーニング 7名
  - ・基礎配属留学 4名
  - ・ハワイ大学語学留学 4名
  - ・国際看護演習 2名
  - ・その他自由科目単位認定 5名
- 2025年度海外留学予定者の内訳

### 解剖実習室タブレットシステムの導入

解剖実習室にICTを活用したタブレットシステムを導入しました。各実習台のタブレットに実習資料やCT画像、他台の特殊例を表示しながら実習を進めることが可能です。視覚的資料により解剖学的理解が深まり、実臨床とのつながりを意識した実践的な教育が可能になりました。



解剖実習室タブレットシステム

### 電子ジャーナルの提供

図書館は、スマート・ライブラリ構想に基づき、電子書籍や電子ジャーナルといった電子資料の購入を進めています。

2024年度は一部海外電子ジャーナル契約を見直し、利用が見込まれる医学・看護学分野の電子ジャーナルパッケージを新たに導入しました。見直しにより、利用可能な海外電子ジャーナルが144タイトルから520タイトル(2025年3月31日現在)へ増加しました。また、国内電子ジャーナルについても1,618タイトル(2025年3月31日現在)を提供しています。

### 国家試験合格状況

2024年度の医師国家試験は直近10年で最高の合格率を達成しました。引き続き、本学学生が全国平均に比して誤答率が高い分野について分析を行い、対策を進めています。また、看護師国家試験の合格率は100%を維持しています。



# 研究

## 国際連携と学内外協働を通じた 光医学研究基盤の強化と 次世代研究者育成による最先端医療への展開

理事(企画戦略・研究担当)・副学長  
須田 隆文



2024年4月に発足した「光医学総合研究所」は、光先端医学教育研究センターと国際マスマイミゼンセンターの統合・発展により、国内外の最先端研究を結集する拠点として活動しています。2025年2月には、第1回国際シンポジウムを開催し、海外の著名研究者による最新成果の発表や活発な議論を通じて、国際的な研究ネットワークをさらに強化しています。加えて、2023年に文科省の事業として採択された「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」や、2024年に藤田医科大学との連携により採択された「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」により、「ホスピタル・ラボ」及び「光分子解析施設」を新設しました。マスマイミゼンや3D顕微鏡イメージングを駆使した神経解剖学的アプローチにより、未知の神経機能分子の同定と機能解明を目指しています。

さらに、2025年には山梨大学を代表機関とし、本学に加えて富山大学・福井大学と連携して、AMEDの「医学系研究支援プログラム(特色型)」に採択されました。2025年10月からの2年半、総額13.8億円の予算を活用し、光量子医学など各大学の強みを融合した「GLIAコアファンリティ」を設置し、先端機器の共用と医学研究専門人材の支援により、若手臨床医の研究環境改善、研究力強化、国際連携を通じた持続可能な研究体制構築、次世代研究者育成を推進していきます。

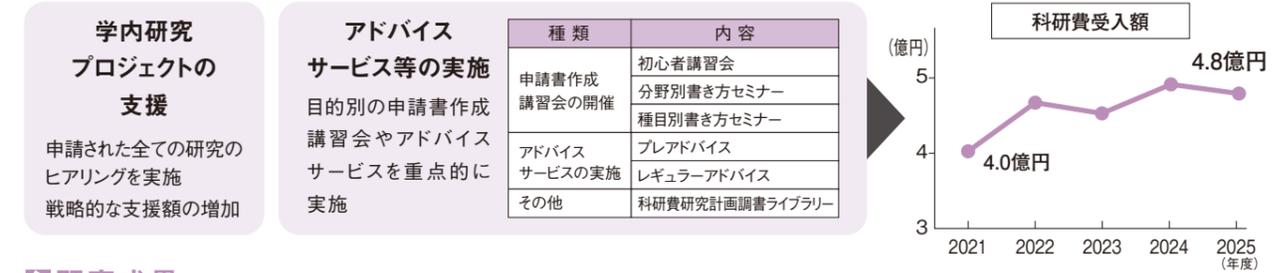
このように、光医学総合研究所を中心とした本学の先端医学研究は、アンメットメディカルニーズ(未解決で有効な診断法、治療法が望まれる疾患)の解明や、新規診断法・治療法、医療機器の開発と実用化につながる大きな可能性を秘めています。国内外との連携と学内外の協働を通じて、次世代の医学研究の新たなステージを切り拓いてまいります。

- 将来ビジョン**
- イメージングコンプレックスを活用した先端的な光医学研究の進展
  - こころの病や遺伝性疾患等の基礎・臨床が一体となった研究の推進と治療法の開発
  - 工学・情報学等との分野横断的研究の推進によるイノベーションの創出
  - 新しい医療技術・システムの開発やビッグデータ解析によるウェルネスの創成

主なロードマップ	～2023年度	2024年度	2025年度	2026年度～
研究戦略室と5つのWGの設置		活動中		
研究支援制度の拡充		戦略的共同研究支援事業の創設(2021年度)・活動中 若手卓抜研究者制度の創出(2019年度)・実施中		
新たな研究組織の設置	光医学総合研究所設置準備	達成	設置・活動開始(2024年4月～)	
先端機器の導入と共用化の推進	マスタープランに基づく機器導入によるイメージングコンプレックス体制の強化		学外web予約システムの運用開始	

### 研究活動の推進

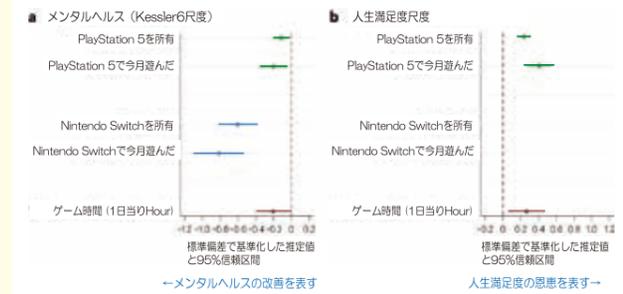
本学では、学内研究プロジェクトとして、研究費の学内助成事業を行っています。支援額を毎年増やし、支援の強化を進めています。また、申請書作成方法の講習会開催等の研究支援活動もっており、これらの研究支援効果により、外部資金及び科学研究費獲得額は順調に推移しています。



### 研究成果

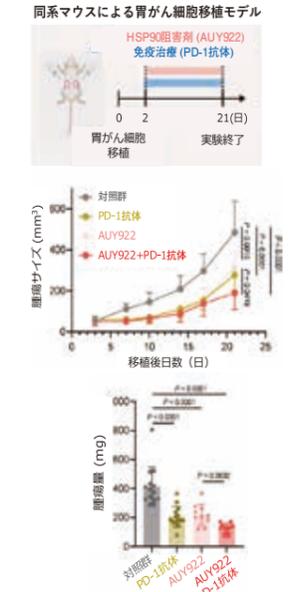
#### ビデオゲームとウェルビーイングの因果関係が明らかに ～日本の自然実験が示すゲーム習慣のポジティブな効果～

子どものこころの発達研究センターのMd. Shafiqur Rahman 特任講師らの研究チームは、ビデオゲームが日常における主観的ウェルビーイング(メンタルヘルス及び人生満足度)を向上させることを明らかにしました。本研究は、ゲームがウェルビーイングに及ぼす影響について、実際の生活に基づくデータによって因果関係を明らかにした世界で最初の論文です。ビデオゲームの健康への悪影響がしばしば懸念される中、本研究は「ゲームがウェルビーイングを向上させる」エビデンスを示すことで、固定観念に挑んでいます。



#### 胃がんにおけるHSP90阻害剤のYAP1/TEAD経路阻害 及び腫瘍免疫環境変化を介した抗腫瘍効果を解明

腫瘍病理学講座の吉村克洋 助教授らはテキサス大学MDアンダーソン癌センターとの共同研究により、HSP90阻害剤(AUY922)がYAP1/TEAD 経路を抑制し、腫瘍免疫微小環境を活性化することで抗腫瘍効果を示すことを明らかにしました。難治性進行期胃がんにおいて、HSP90阻害が新たな治療標的となり、近年のがん治療の主役である免疫治療との併用の可能性も示唆する画期的な研究成果として評価されました。腫瘍病理学講座では、肺がんなどが他がん種においても、シグナル伝達経路や腫瘍免疫微小環境に着目した研究を進めています。



その他にも本学の研究成果をホームページで公表しています。  
▶ <https://www.hama-med.ac.jp/public-relations/press/index.html>

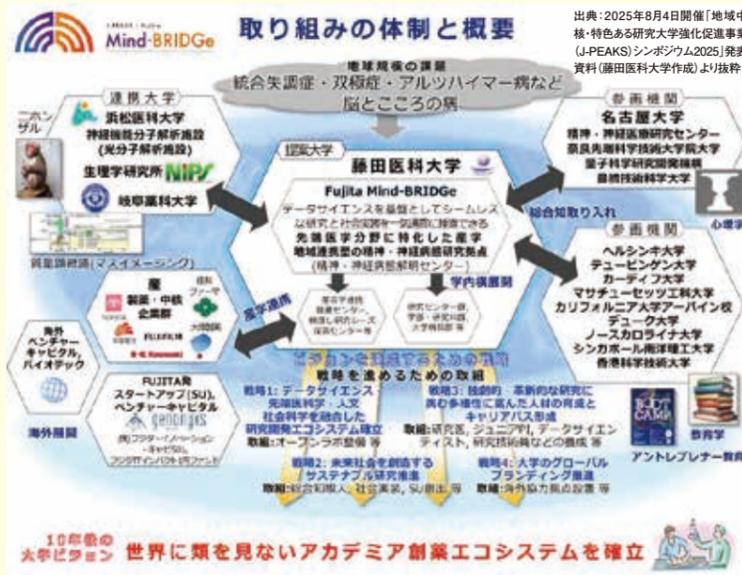


### 地域中核・特色ある研究大学強化促進事業 本学が連携大学として参画している 藤田医科大学提案の事業が採択

精神・神経病態研究拠点 提案大学:藤田医科大学  
連携大学:機関:浜松医科大学、生理学研究所、岐阜薬科大学

データサイエンスを基盤としてゲノムから分子、細胞、神経回路、認知・行動、ヒト臨床、創薬、心のケアに至るシームレスな研究と社会実装を一気通貫に推進できる「精神・神経病態研究拠点」を形成する

本学の取組  
施設整備事業で整備された光分子解析施設を拠点として、本学が培ってきた光量子技術と死後脳カダバラボの特長を生かし、独自に開発してきた質量顕微鏡イメージングや3次元電顕解析などの技術により、国際的な光・量子医学技術による創薬支援拠点「光・量子医学創薬支援拠点」として、提案大学が進める創薬の支援を行います。



### 光分子解析施設(2024年12月完成)

大学の研究力向上に向けて、創薬分野の研究を強化/標的分子同定や薬効・薬理・毒性試験、先端イメージング技術により病態解明研究ができる施設を2024年12月に整備しました。



### 第1回浜松医科大学光医学総合研究所 国際シンポジウム開催

2025年2月28日に本学講義実習棟特別講義室において第1回浜松医科大学光医学総合研究所国際シンポジウムを開催し、学内外から約100人が参加しました。発表言語は英語で行われ、国内外の著名な研究者にご講演いただき、質疑応答では活発な意見交換が行われました。

スタンフォード大学のMark Schnitzer氏、ルートヴィヒ・マクスミリアン大学ミュンヘンのAli Entürk氏は国際的に著名な研究者で、演者の優れた研究成果に刺激を受け、研究意欲を高める大変貴重な経験となるとともに、本学の国際化推進につながる大変有意義な国際シンポジウムとなりました。



# 医療

## 地域に貢献する医療機関として

副学長(病院担当)・病院長  
竹内 裕也



2025年4月より浜松医科大学医学部附属病院長を拝命しました竹内裕也です。どうぞよろしくお願いいたします。

私は病院長として本院には3つの使命があると考えております。「地域と世界に貢献する」「患者さんと職員を大切に」「社会を先導する人材を育成する」です。またこの使命を果たすうえで5つの目標を立てました。1. 患者中心の医療の実現、2. 優れた医療人材の育成と職員の働きやすい環境づくり、3. 先進医療と研究の推進、4. 地域医療との連携強化、5. 経営基盤の強化です。これから2年間、5名の副病院長、4名の病院長特別補佐の先生方と協力して、これらの目標を達成すべく邁進したいと存じます。

2024年度は病床稼働率88.2%、手術件数9,021件と高水準を維持し、収益は306億円超(前年比4%増)を確保しましたが、同時に人件費や診療経費の高騰も大きな課題となっております。医療を取りまく環境は厳しさを増しておりますが、本院は静岡県内唯一の大学病院・特定機能病院として地域の患者さんに安全安心かつ最良の医療を提供することを第一とし、同時に患者さんの心に寄り添った医療の実現を目指します。

今年度はロボット支援手術やゲノム医療、AI画像診断のような最先端医療の推進に加えて、新たに総合診療科の開設と救急診療体制の拡充、静岡県内の医師不足地域への医師派遣を計画しており、これまで以上に地域医療への貢献を進めてまいります。

地域を支える医療機関の皆さまにおかれましては、日頃から本学、本院へ多大なご支援をいただいておりますことに心より感謝申し上げます。これからも高度な医療を提供する先進医療機関として、難治性疾患に立ち向かう最後の砦として、また優れた医療人を育成する県内随一の医育機関として地域への貢献をさらに進めてまいりますので、何卒ご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

### 将来ビジョン

- メディカルDXにより効率的かつ安全で高度な医療を提供するスマートホスピタルの実現
- 地域医療の中核を担う高度な能力を有した医療人の育成
- メディカルスタッフによるタスクシフトをはじめとする医療従事者の新たな働き方の実践
- 地域社会のニーズとマッチし集約化・機能分化した医療ネットワークの構築

主なロードマップ	～2023年度	2024年度	2025年度	2026年度～
安全で高度な医療の推進	感染制御センター設置 <b>達成</b>		新興感染症への対応	
		救急体制の見直し RRT活動 救急・総合診療科診療科群及び総合診療科の新設		
メディカルDXによるスマートホスピタルの実現		ベッドサイドケア情報統合システム 外来WEB予約 AI問診 <b>達成</b>	生成AIを用いた診療文書作成	
		医用画像一元管理システム VNA (Vendor Neutral Archive) <b>達成</b>		
臨床教育の充実		臨床研修プログラムの見直し 研修協力施設の拡充 <b>達成</b>	医師少数数区域への指導医を含めた医師派遣	
		寄附講座の活用 大学とのダブルアポイント制度を利用した医療職のスペシャリスト育成		
新たな医療ネットワークの構築	<b>達成</b>	院外電子カルテ情報共有システムの導入	電子カルテ情報共有サービスモデル事業	
		準備	<b>達成</b> 地域医療連携推進法人の設立(浜松医科大学、浜松医療センター)	
医療従事者の新たな働き方の実践		特定看護師の活用 <b>達成</b> 医療技術者による医師のタスクシフト(麻酔科医師補助業務、心血管カテーテル検査・治療清潔補助業務)		
		差額個室リニューアル計画 <b>達成</b>		
病院運営・患者サービス		院内Wi-Fi整備 <b>達成</b>	WEB予約システム・ナビダイヤル(予約変更窓口)の導入	
			脳卒中・心臓病等総合支援センターモデル事業	

### 下り搬送システムの運用開始

浜松地域の高度急性期医療機関に救急受診する患者さんのうち、急性期病院の入院適用にならない患者さんを連携先医療機関へ搬送するシステム(通称「下り搬送」)の運用を2024年11月より開始しました。この下り搬送システムにより、急性期病院での救急患者の受入れがスムーズになり地域の救急医療体制の強化が期待されます。開始当初は整形外科疾患のみでしたが、現在では内科系疾患の下り搬送も実施しています。市内の急性期病院が当院を含め3病院、連携先病院が5病院参加しており、今後も連携先医療機関の拡充が見込まれます。



### 研修医メンター制度の導入

2025年度から、研修医が進路の悩み、個人的な悩み、研修全般等を気軽に相談できて、安心して研修に取り組むことができるよう研修医メンター制度を導入しました。

2025年度のメンターには若手からベテランまで幅広い診療科の医師(32名)から応募があり、研修医はメンターのプロフィールをもとに、診療科や共通の趣味等を参考にして、自分に合ったメンターを選びました。

今後も、研修医をはじめとした若手医師が心身ともに健やかに研修に集中できる環境づくりに努めてまいります。



メンターと研修医の顔合わせ会(4月24日開催)



レクリエーションで打ち解けたメンターと研修医

### 患者さんの療養環境改善に向けた取組

附属病院では、2024年度も患者さんの療養環境の改善に向けてさまざまな取組を行いました。

2024年9月に全ての床頭台を更新し、ICUなど一部の病室を除きベッドサイドケア情報統合システムを導入しました。このシステムは、病院既設の電子カルテシステムと連携し、各病床に設置したベッドサイド情報端末で患者情報の確認及び情報入力を行うことで、安全性の向上と看護業務の効率化が行えるシステムです。

さらに、患者さんの多様なニーズに応えるため特別室(差額室)の内装や調度品等を一新し、特別室料金の改定を行いました。

また、外来棟では6月から、病棟では9月から患者さん向けの無料Wi-Fiの運用を開始しました。



V個室



S個室



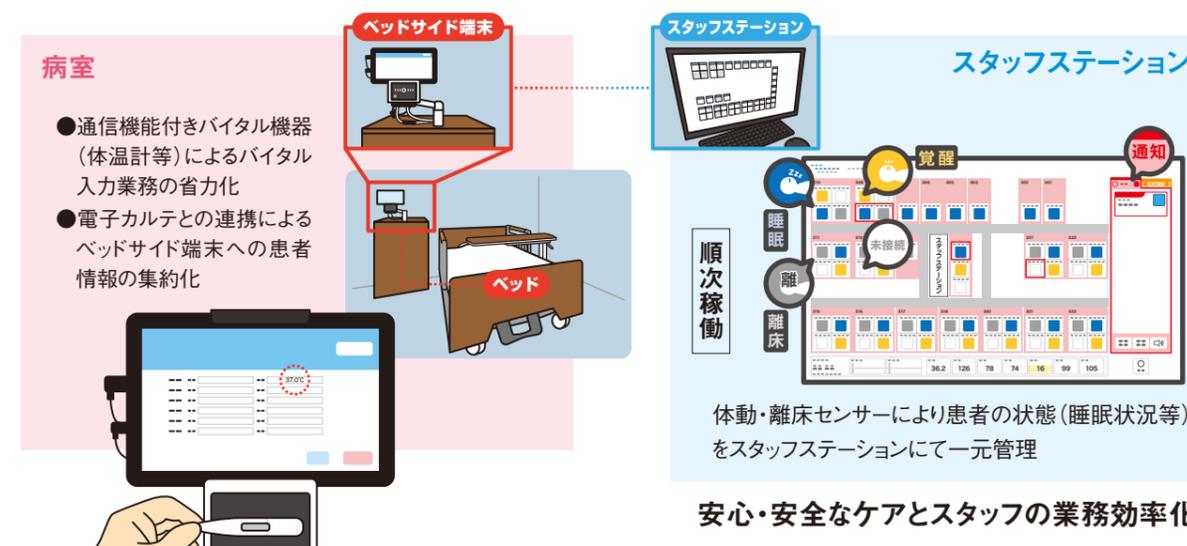
A個室



B個室

### ベッドサイドケア情報統合システムの導入

2024年9月にICU等を除く全病棟(580床)で導入



# 社会連携・地域連携

## 産学官連携・地域連携の更なる発展

副学長(共創・イノベーション担当)  
中村 和正



本学では、将来ビジョンの実現に向け、共創とイノベーションを推進する多様な取組を展開しています。

2022年度に設立された次世代創造医工情報教育センター(Nx-CEC)では、「アントレプレナーシップ部門」と「データサイエンス部門」の活動が一層活発化しています。2025年度からは学生へのPythonを用いたプログラミング教育や大規模言語モデル・AI教育を本格的に展開し、メディカルDXを担う人材を育成します。加えて、起業家精神やデザイン思考を基盤とし、社会課題の解決に挑戦する人材の育成を進めてまいります。また、2023年度に発足した地域創成防災支援人材教育センター(R-CEC)では、医療目利き人材や地域防災・原子力防災を担う人材の養成に取り組んでいます。2025年度からは医学科1年生を対象とした防災士教育を開始し、自治体や企業の協力を得て、地域の看護職向け災害医療セミナーを実施しています。

2025年度には文部科学省の支援を受け、地域診療教育システム開発センター(R-DEC)を設立しました。本センターは自治体や医療機関と連携し、静岡県の医師少数地域で活躍できる医師の養成と定着を図り、持続可能な地域医療体制の構築に貢献します。

加えて、光技術・ものづくり技術を活かした医工連携研究を推進するための実証施設「ホスピタル・ラボ」が2025年に完成しました。2024年度に活動を開始した産学官連携法人「株式会社はままつ共創リエゾン奏」を中心に、産学官金が一体となった医療機器開発を進め、地域発の革新的イノベーション創出を目指してまいります。

### 将来ビジョン

- 産学官金連携推進体制の強化による革新的な技術の創出とベンチャー企業の育成
- 地方創生・価値創造の中核として、地域や他大学と連携したインクルーシブで持続可能な「ウェルネス社会」の共創

主なロードマップ	～2023年度	2024年度	2025年度	2026年度～
産学官金連携の推進	産学連携部門の外部法人化を検討	外部法人の設置・活動開始		
	ホスピタルラボの設置・活動開始(2023年度)			
	次世代創造医工情報教育センター設置・活動(2022年度)			
	地域創成防災支援人材教育センター設置・活動開始(2023年度)			
			地域診療教育システム開発センター設置・活動開始	

### 次世代創造医工情報教育センター(人材育成への取組)

次世代創造医工情報教育センター(Nx-CEC)では、1～2年次の必修授業である「医学概論」や3年次に各講座にて短期間の研究体験を行う「基礎配属」、各種セミナーやピッチコンテストなどを通じて、医療における新たな価値を創造し、広く人類の健康と福祉に貢献できる多様な医療系人材を育成しています。これらの体系的なカリキュラムの実施等により、以下の事例のように学生のアイデアから新たな研究テーマが生まれています。

#### ■ NFC技術を活用した徘徊高齢者の身元確認・医療情報提供システム構築の取組

認知症等で行方不明となる人が年々増加していることから、浜松市では徘徊のおそれのある高齢者の靴に登録番号付きのオレンジ色のシールを貼り付け、事前に名前や家族の連絡先を登録しておく取組を行っています。しかし、違う靴を履いている場合は身元を確認できないなど、対応が難しい場合もあります。

そこで、交通系ICカードなどに活用されているNFC(Near Field Communication)タグを活用し、氏名、生年月日、性別、住所などを登録したNFCタグを足の爪にジェルネイルで固定する方法を検討しました。導入・維持にかかるコストや情報量に課題が残りますが、本システムにより、高齢者自身の負担を最低限にしつつ、既存の方法よりも確実かつ迅速に情報を伝達できると考えられます。



### 産学官連携の取組

本学が中心となって運営している「はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点(通称:はままつ医工連携拠点)」では、浜松商工会議所 浜松医工連携研究会(100社)と連携し、医療・介護現場との情報交換会や医療・介護現場の現場見学会を開催しています。これらの取組により、医療現場のニーズに基づいた研究シーズを創出し、実用化・製品化を達成しています。

また、セミナーやフォーラムを開催するなど、地域の医療における産業界との連携に力を入れています。



▲医療現場見学会の様子

### 実用化された開発技術

本学では、大学発ベンチャー企業を含めた民間企業等との共同研究によって生まれた研究シーズを実用化・製品化することにも力を注いでいます。

#### [事例]

#### H型耳垢鉗子

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座と本学発ベンチャー企業である「株式会社はままつメディカルソリューションズ」との共同開発で、H型耳垢鉗子を販売しました。耳科治療において身体組織などを非外傷性に把持するための器具で、子どもの耳垢を取りやすい鉗子が欲しいという耳チームの先生方のアイデアで開発されました。



### 地域創成防災支援人材教育センター(人材育成への取組)

地域創成防災支援人材教育センター(R-CEC)は、地域の社会課題、特に感染症を含めた救急・災害医療等に対してイノベーションを起こし、地元自治体や企業など地域と共創しながら、防災支援のための地域人材を養成し、地域の課題解決を推進することを目的として活動しています。

その一環として、2024年度から浜松市と連携し、看護職免許所持者や看護生を対象とした「地域サポートナース研修会」を開催しています。本研修会は災害時における地域住民の健康と安全を守るために、看護職が果たす役割を強化することを目的としており、地域社会での災害対応力を高め、被災者への支援を効果的に実行する力を養うことを目指しています。

さらに、2025年度は中部電力株式会社の協力を得て、浜松市以外の静岡県西部地域等においても研修会を実施しています。

R-CECでは、今後も看護職のみならず、地域の多様な専門人材を対象に防災研修を拡大し、地域の防災力向上に貢献してまいります。



また、10月27日にサーラプラザ浜北(プレ葉ウォーク浜北1F)にて、親子を対象とした「防災食クッキング講座」を開催しました。災害時に役立つ調理法や食材の活用方法を親子で楽しく学ぶ機会を提供し、家族での防災意識を深めることができました。

当日は、参加者10組26名、見学4名、障がいがあり特別な配慮の必要な世帯にも参加いただきました。

当講座は災害時にも役立つ調理方法を通して、家庭や地域での防災の備えを親子で学ぶ機会として盛況のうちに終了しました。今後も、地域や企業との連携を深めながら防災意識向上に取り組んでまいります。

# 業務運営

## 第5期中期目標期間に向けて

理事(財務担当)・事務局長  
三沼 仁



第4期中期目標期間の3年目である2024年度は、中期目標・計画の達成を見通しながら、第5期中期目標期間を見据えた方向性も意識しながら取り組まなければならない年度でした。

業務運営においては、大学の諸活動の基盤となる財源の確保や施設・設備の充実に積極的に取り組みました。財源の確保については、リスクと収益性のバランスを考慮しながら余裕金の運用に積極的に取り組み、運用収入は2023年度に比べ約1,500万円増額しました。また、地元の企業・自治体からの寄附により大学の教育研究の活性化を図ることを目的とした寄附講座の開設に積極的に取り組み、2025年4月から4つの講座を新設しました。施設・設備の充実については、国や静岡県からの財政支援や自己財源によるこれまでの計画的な整備により、建物の老朽化率が11.6%と比較的良好な水準を維持していることから、近年はライフライン等の基幹・環境の整備に力を入れています。また、大学の機能の更なる向上に向け、国の資金を新たに獲得し「ホスピタル・ラボ」や「光分子解析施設」の施設を新たに整備しました。こうした計画的・積極的な取組により、2022年に策定した「キャンパスマスタープラン」の達成度は92%となりました。

我が国の少子化が急速に進行している状況を踏まえて、国から高等教育機関に対しては、知の総和(人数×能力)の向上に向け、教育研究の質の確保や規模の適正化などが求められており、2028年度からスタートする第5期中期目標期間においては、これまで以上に踏み込んだ改革を求められるのではないかと思います。高等教育機関であると同時に医療機関でもある本学が、少子化の進行だけでなく高齢化の進展にも目を向けながら新たな課題に対しても迅速かつ確にできるよう、業務運営・財務運営の観点からも更なる改革に努めていきたいと思ひます。

### 将来ビジョン

- 外部有識者やその他ステークホルダーとの対話とエビデンスに基づく戦略的大学の運営
- 財源の多元化や資産運用等の拡大による安定的な財務運営
- イノベーション・commonsの実現、病院機能の強化とデジタル・キャンパスの推進

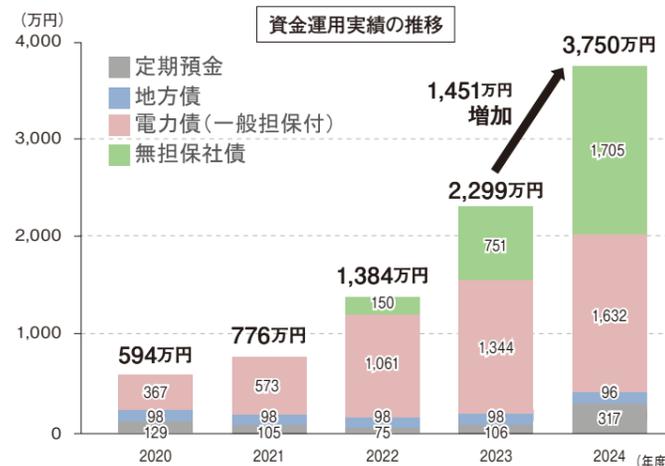
主なロードマップ	～2023年度	2024年度	2025年度	2026年度～
外部有識者やステークホルダーとの対話	開学50周年記念事業の検討	式典開催	統合報告書の発行	
財源の多元化と資産運用等の拡大		投資信託等による運用の検討		
施設整備、デジタル・キャンパスの推進	講義実習棟の改修	達成	利用開始	
	ホスピタル・ラボの設置		達成	利用開始
	光分子解析施設の設置		達成	利用開始

### 資金運用拡大の取組

業務上の余裕金の運用にかかる文部科学大臣の認定を受けたことにより、安定した中長期的な運用を見据え、収益性の高い金融商品での運用を始めています。

資金運用管理委員会において、金融資産のリスク・リターンの詳細を見極め、外部委員を含めた審議体制にて積極的に投資したことで運用実績が向上しています。

2024年度は10億円の定期預金の預け入れや6億円の債券購入及び2億円の地方債の入れ替えを行った結果、運用益は2023年度と比較して1,451万円増加しました。

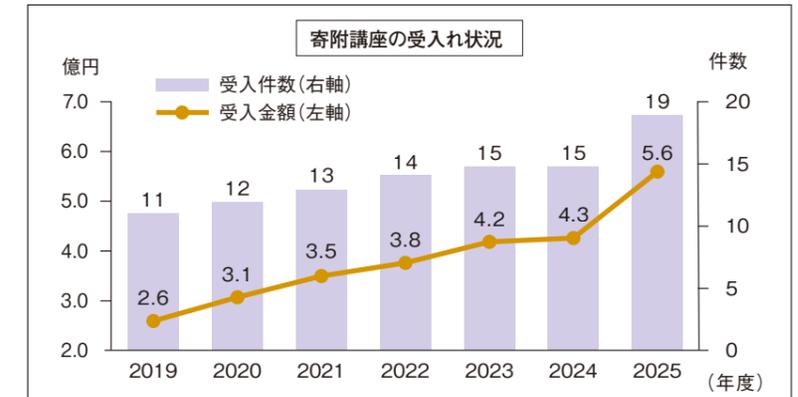


### 寄附講座の受入れ

企業、自治体等からの寄附金により、大学における教育研究の豊富化、活性化を図ることを目的として、寄附講座を設置し、運営しています。2025年度には新たに4件の寄附講座等を設置しました。

- ・地域総合医研究開発部門(静岡県)
- ・浜松循環器疾患地域支援講座(浜松市)
- ・生活習慣関連疾患重症化予防医学講座(静岡市)
- ・地域連携先端医療学講座(御前崎市)

本制度の活用により、大学と企業、自治体等との幅広い連携や、教育研究の一層の進展、活性化が期待できます。



### クラウドファンディングの成果報告

本学では、診療体制の充実にに向けた機器購入の財源として、補助金に加えてクラウドファンディングも活用しています。2023年1月から3月にかけて実施した事業「難治性血液がんをCAR-T細胞の力で治すため、充実した治療環境を!」では、530名の方から目標金額を大幅に上回る2,668万円のご支援をお寄せいただきました。

いただいたご寄附により、2024年11月に当初の計画通り遠心型血液成分分離装置を購入しました。さらに、2025年5月、製造されたCAR-T細胞療法製剤を保管する大型液体窒素保管容器を購入し、それを設置するための部屋の改修工事も併せて実施しましたが、その費用も皆様からのご寄附を活用させていただきました。



遠心型血液成分分離装置と小野輪血・細胞治療部長



改修を行った部屋と購入した大型液体窒素保管容器

### 病院中庭緑化プロジェクトについて

『病院中庭緑化プロジェクト』は、附属病院の病棟と外来棟の間にある中庭に植物を多く設置する活動を推進する事業で、2025年5月に植栽を設置しました。

植栽の導入や毎月のメンテナンスにかかる費用は、地域の取引企業からいただいた寄附金を充てるため、本学から支出することなく事業の継続が可能です。ご寄附いただいた企業については、植栽にサインボードを設置することで環境活動のPRに協力しています。



# 2024年度から2025年度の 主な施設整備（整備中を含む）

教育・研究・医療・産学官連携に係る環境の充実や  
来学される方々の利便性向上のため、  
様々な施設・設備を整備しています。

**①病棟・外来棟3階照明改修**

工期	2024.10~2025.3(Ⅱ期) 2025.4~2026.3(Ⅲ期)(予定)
----	---

静岡県医療提供体制施設整備事業費補助金(地球温暖化対策施設整備事業)により、省エネ効果が高い24時間365日点灯している病棟廊下等の照明をLEDへ更新することで、地球温暖化対策への取組を推進します。

**②看護学科棟3,4階照明改修**

工期	2025.12~2026.1(予定)
----	--------------------

施設の長寿命化による省エネ効果が高い看護学科棟廊下等の照明をLEDへ更新することで、地球温暖化対策への取組を推進します。

**ライフライン再生**

対象/工期	屋外ガス管 / 2024.8~2025.3 屋外通信線 / 2024.9~2025.1 中央監視 / 2025.4~2026.3(予定)
-------	--

施設の長寿命化を実現させるため、老朽化が進行したライフラインの健全化を図り、未然に事故を防止します。安全・安心な教育・研究・医療環境等を確保するため、計画的に対策を実施しています。

**③ホスピタル・ラボ**

建築面積/延床面積	549㎡ / 2,511㎡
構造/階数	鉄骨造 / 地上5階
工期	2024.1 ~ 2025.3

地域産学官連携科学技術振興拠点施設整備費補助金(地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業)により、主に新規医療技術の実証、近未来の病院DX化等に向け開発研究を行う実験室として実用化・事業化を推進する施設を整備しました。



**④光分子解析施設**

建築面積/延床面積	367㎡ / 726㎡
構造/階数	鉄骨造 / 地上2階
工期	2024.2 ~ 2024.12

地域産学官連携科学技術振興拠点施設整備費補助金(地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業)により、藤田医科大学の連携大学として、脳神経病態研究の研究推進と広範囲な共同研究の活性化を促し、創薬等の社会実装を促進する施設を整備しました。



- 病院施設
- 大学施設
- 基幹環境整備

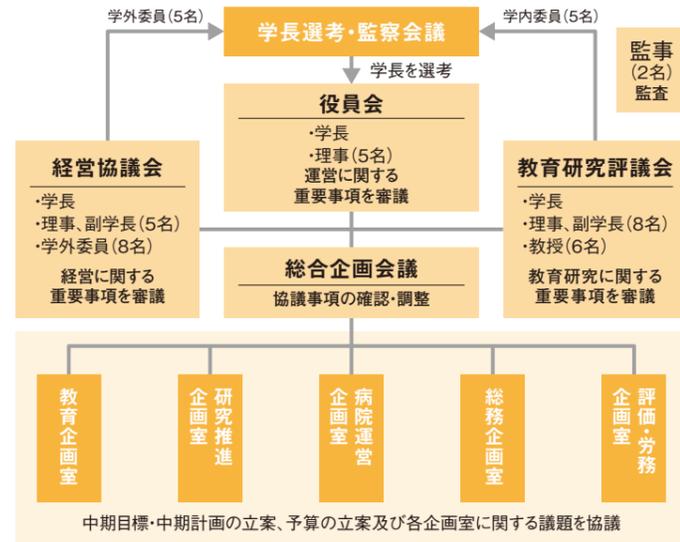


## 運営組織図

本学では、各分野の専門的事項等を協議するため5つの企画室を置き、室長には、その分野を所掌する理事、副学長を充てています。この企画室では、中期目標・中期計画の立案及び予算の立案について一体的に協議を行うことにより、目標達成に向け効率的な体制を構築しています。

さらに、学長や各企画室長等で構成される総合企画会議では、各企画室において協議された事項について、改めて確認・調整を行った上で、中期目標・中期計画や予算等の重要な事項については、国立大学法人法で設置が定められている教育研究評議会、経営協議会及び役員会において審議しています。

また、国立大学法人法に基づき本学の業務を監査するため監事を置いています。

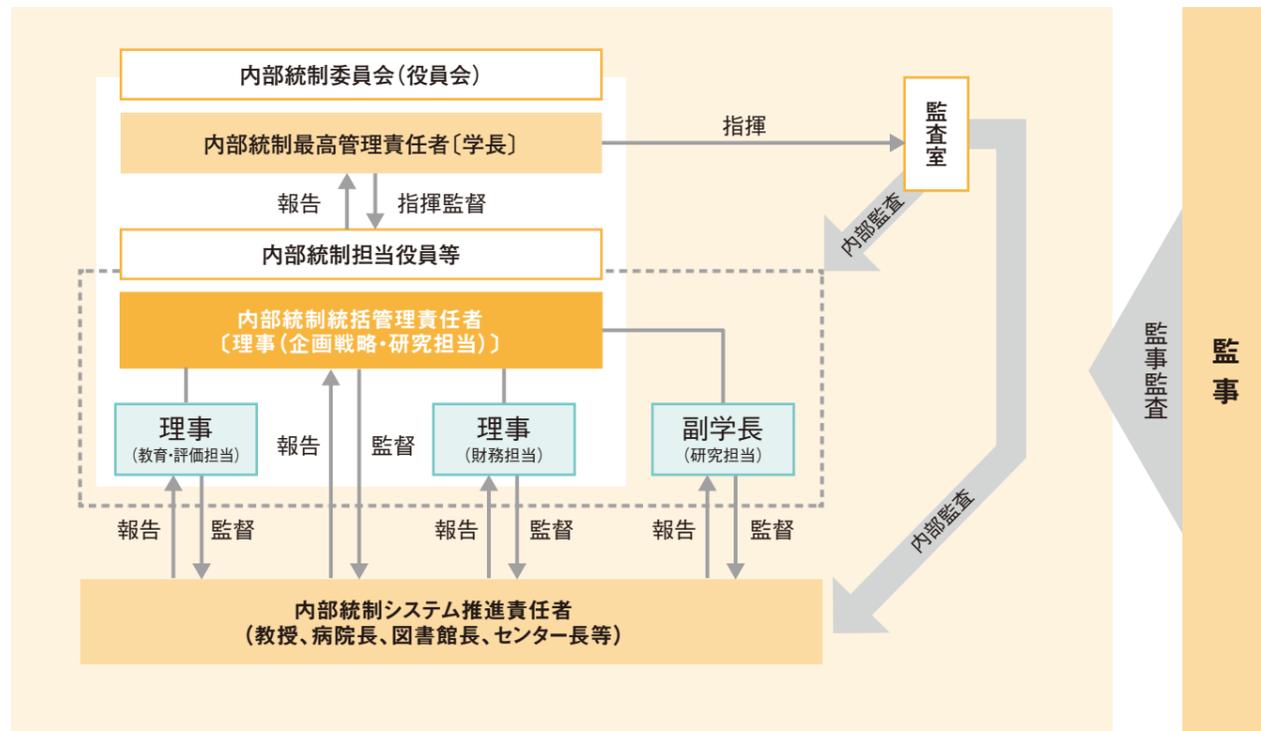


## 内部統制

本学では「国立大学法人浜松医科大学業務方法書」に基づき、業務の適正を確保するための体制を整備・運用するため、「国立大学法人浜松医科大学内部統制システムの整備及び運用に関する規則」を定めています。内部統制は、「①業務の有効性及び効率性、②財務報告の信頼性、③事業活動に関わる法令等の遵守、④資産の保全」を目的としており、本学は以下に示す体制により内部統制システムを運用しています。

本学は内部統制システムの継続的な見直しを行いながら、業務の有効性・効率性の向上を図りつつ、コンプライアンスを推進し、関係者の皆様の期待に応えられるよう努めています。

## 内部統制に係る組織図(イメージ)



## 国立大学法人ガバナンス・コードへの対応

国立大学法人ガバナンス・コードは、国立大学法人に高い公共性が求められ、各種の財政支援等が行われていることから、強固なガバナンス体制を築くとともにそのことを多様な関係者に対して明らかにするため、政府の「統合イノベーション戦略(2018年6月15日閣議決定)」を踏まえ、2020年3月に国立大学協会が文部科学省、内閣府の協力を得て策定しました。

ガバナンス・コードの実施を通じて教育・研究・社会貢献機能を高めるとともに、経営の透明性を高めて、社会への説明責任を果たすため、毎年度、その適合状況に関する報告書を公表しています。

なお、ガバナンス・コードは77の基本原則、原則、補充原則から構成されており、本学は全ての原則に対応していることを確認しております。

web 国立大学法人ガバナンス・コードへの対応状況は、ホームページで公表しています。  
<https://www.hama-med.ac.jp/about-us/disclosure-info/governancecode.html>



## 研究費の不正使用防止及び研究活動の不正行為防止への対応

本学では、「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン(2014年8月26日 文部科学大臣決定)」及び「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン(実施基準)(2007年2月15日 文部科学大臣決定 2021年2月1日改正)」に基づき、以下の責任体制の下、研究費の不正使用防止及び研究活動の不正行為防止に向けて取り組んでいます。

## 責任体系

研究費の運営・管理		研究活動の不正行為防止	
研究費不正防止最高管理責任者	学長 ■法人統括	研究公正最高責任者	学長 ■法人統括
研究費不正防止統括管理責任者	理事(財務担当) ■学長補佐 ■研究費不正防止統括	研究公正統括責任者	副学長(研究担当) ■学長補佐 ■不正行為防止事務統括
コンプライアンス推進責任者	事務局次長(総務・教育担当) ■不正防止対策の実施 ■コンプライアンス教育の実施・管理	倫理教育統括責任者	■学長補佐 ■研究者倫理向上事務統括
各講座等の主任教員	■所属職員への周知徹底 ■法令及び関連規則遵守 ■研究費適正使用の遵守	研究公正・倫理教育責任者	各講座等の主任教員 ■所属職員への周知徹底 ■法令及び関連規則遵守 ■研究者倫理の向上

## 関係組織等

### 研究費不正防止計画推進委員会

- ・不正防止計画の策定・実施
- ・実施状況及び監査結果の確認と必要に応じた是正対応

### 研究活動公正推進委員会

- ・研究倫理の向上を図るための教育、研修及び啓発
- ・不正行為への対処並びに研究の公正な推進

## 窓口

### 監査室 研究協力課

- …告発窓口
- …研究活動の不正行為防止

### 会計課

- …研究費の運営・管理

## 主な取組

- スタートアップミーティングの実施(関係各部署の事務局職員が国等からの受託研究費を獲得した各講座等担当者(教員・事務補佐員)に対して個別に執行ルールや事務手続等の注意事項などを説明し、連携・情報共有・意識統一を図ります。)
- 定期的な不正防止に関する講習会の実施
- e-learningによる研究倫理教育の実施

web 研究費の不正使用防止等に関する基本方針や規則等は、ホームページで公表しています。  
<https://www.hama-med.ac.jp/research/fraudulent/index.html>



本学を支えてくださる多くの皆様に、本学の財務情報の概要をご理解いただくため、国立大学法人特有の会計制度について、簡潔にご説明いたします。

## 国立大学法人会計と官庁会計、企業会計との違い

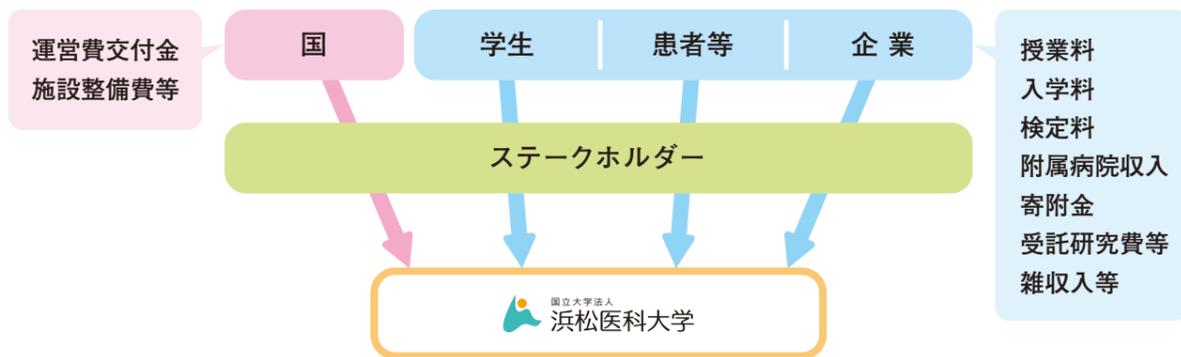
国立大学法人の会計制度は、企業会計原則を基本としていますが、国立大学という公共的な性格や特殊性を踏まえて、企業会計とは異なる独特な会計制度(国立大学法人会計基準)が採用されています。

区分	目的	利害関係者	利益の獲得
国立大学法人会計	財政状態・運営状況の開示	国民その他の利害関係者	目的としない
官庁会計	予算とその執行状況の開示	国民、住民	目的としない
企業会計	財政状態・経営状態の開示	株主、投資家、債権者等	目的とする

- 主たる業務は「教育・研究」等のサービス提供であり、利益の獲得が主目的ではありません。例外的に附属病院における診療等については、利益の獲得はある程度考慮され企業会計と同様な処理となります。
- 独立採算を前提とせず、国からの財政支援(運営費交付金等)があります。

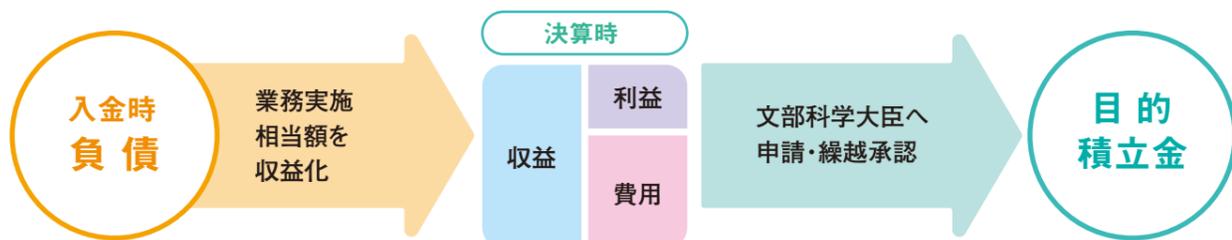
## 国立大学法人会計の財源(収入源)

国立大学法人は、国からの運営費交付金、学生からの納付金(授業料、入学料、検定料)、附属病院収入、企業からの寄附金、受託研究費等を財源(収入源)として運営されています。それぞれの財源(収入源)はそれぞれの性質に応じて会計処理がなされます。



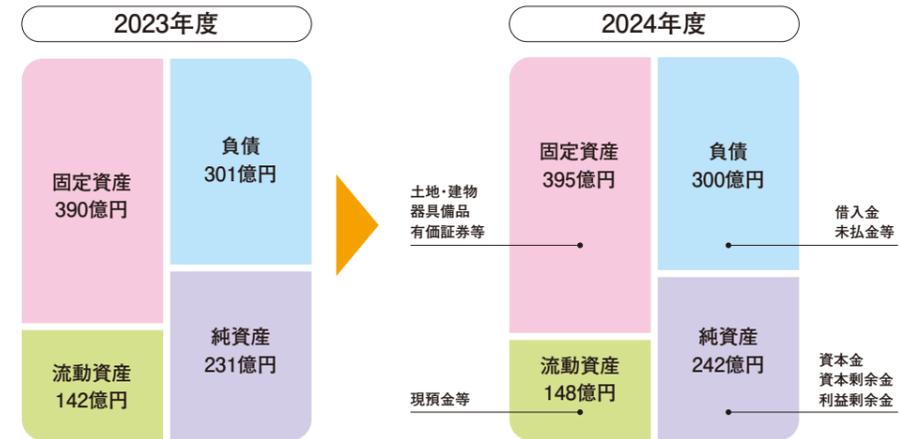
## 国立大学法人の利益

国立大学法人の利益は、計画された業務を効率よく実施したことによる費用の削減や、積極的な自己収入増加を図ったことにより発生した利益です。この利益のうち、大学の運営努力によるものとして文部科学大臣の繰越承認を受けた利益は、「目的積立金」として、中期計画で定めた用途に従い、次年度以降「教育研究診療の質の向上及び組織運営等の改善」のために使用することができます。



## 貸借対照表

事業年度決算日3月31日における資産、負債、純資産を表し、財政状態を明らかにしています。土地、建物や器具備品等の資産、借入金等の負債及び国からの出資等の純資産を元に教育、研究、診療の業務活動を行っています。



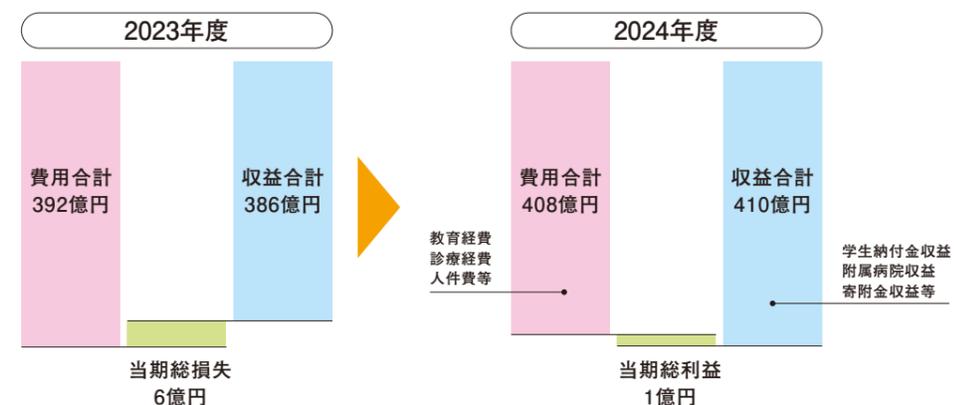
### 主な増減要因等

- 固定資産(前年度比4億円増)  
ホスピタル・ラボ新営工事、光分子解析施設新営工事、手術支援システム、診断用X線CT撮影システムの整備等による増加
- 純資産(前年度比11億円増)  
施設費により取得した資産相当額の増加による資本剰余金の増加

※各金額は単位未満を切り捨てているため、計が一致しない場合があります。

## 損益計算書

年度内に実施した事業により発生した費用、収益を表し、一年間の運営状況を明らかにするものです。教育、研究、診療の業務・目的別に費用を示し、運営費交付金収益や附属病院収益等の財源別に収益を示します。



### 主な増減要因等

- 費用(前年度比15億円増)  
高額薬の使用増加による材料費の増加、物価高騰による影響、人事院勧告への対応等による人件費の増加
- 収益(前年度比24億円増)  
入院患者数の増加や高額薬使用等による診療単価の向上等による附属病院収益の増加、補助金の受入額増加による補助金等収益の増加

※各金額は単位未満を切り捨てているため、計が一致しない場合があります。

## キャッシュ・フロー計算書

事業年度の資金の流れを「業務活動」「投資活動」「財務活動」の3つの区分に分けて表示しています。

### ■業務活動によるキャッシュ・フロー

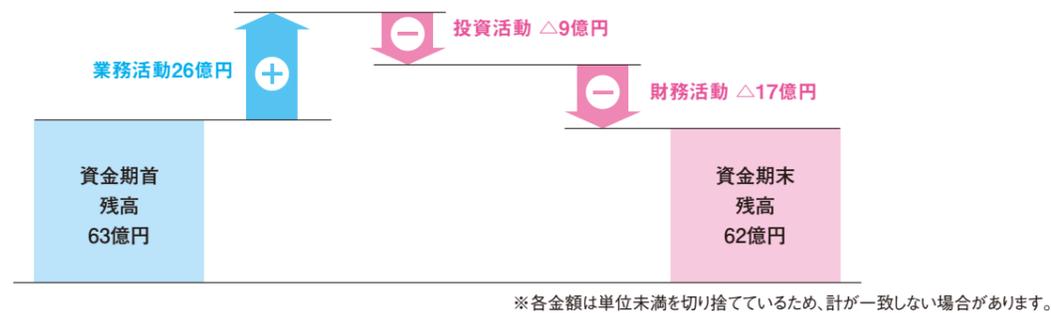
国立大学法人等の通常の業務の実施に係る資金の状態を表します。資金を獲得した場合はプラス、流出した場合はマイナスになります。

### ■投資活動によるキャッシュ・フロー

将来に向けた運営基盤の確立のために行われる投資活動に係る資金の状態を表します。資産等売却の場合はプラス、資産等への投資の場合はマイナスになります。例：固定資産の取得による支出、施設費による収入など。

### ■財務活動によるキャッシュ・フロー

資金の調達及び返済に係る資金の状態を表します。資金を調達した場合はプラス、債務等を返済した場合はマイナスとなります。例：大学改革支援・学位授与機構からの長期借入金の返済による支出、長期借入による収入など。



### 参考 キャッシュ・フロー計算書のパターンと判定

今回、「業務活動」についてはプラス、「投資活動」「財務活動」についてはマイナスとなっているため、パターン④に該当します。国立大学法人で通常想定されるパターンであり、健全な事業活動を行っています。

	業務	投資	財務	財務状況	備考
①	+	+	+	不必要な資金調達を行っており、資金に無駄がある。	
②	+	+	-	本業で資金を獲得し、借入金返済に充当する一方で、設備投資を抑制している。	
③	+	-	+	本業で資金を獲得し、さらに借入による設備投資も行っている。	
④	+	-	-	本業で資金を獲得し、設備投資や借入金返済に充当している。 <b>本学はこれに該当しています。</b>	国立大学法人で通常想定されるパターン。
⑤	-	+	+	本業で資金が不足しているため、借入により賄い、投資も抑制している。	
⑥	-	+	-	本業で資金が不足しているため、投資を抑制し、借入金返済を行っている。	一般的に、附属病院等で赤字が出ている等、資金不足となっている状況。
⑦	-	-	+	本業で資金が不足しているため、借入により設備投資を行っている。	
⑧	-	-	-	本業で資金が不足しているが、設備投資を行い、借入金返済も行っている。	

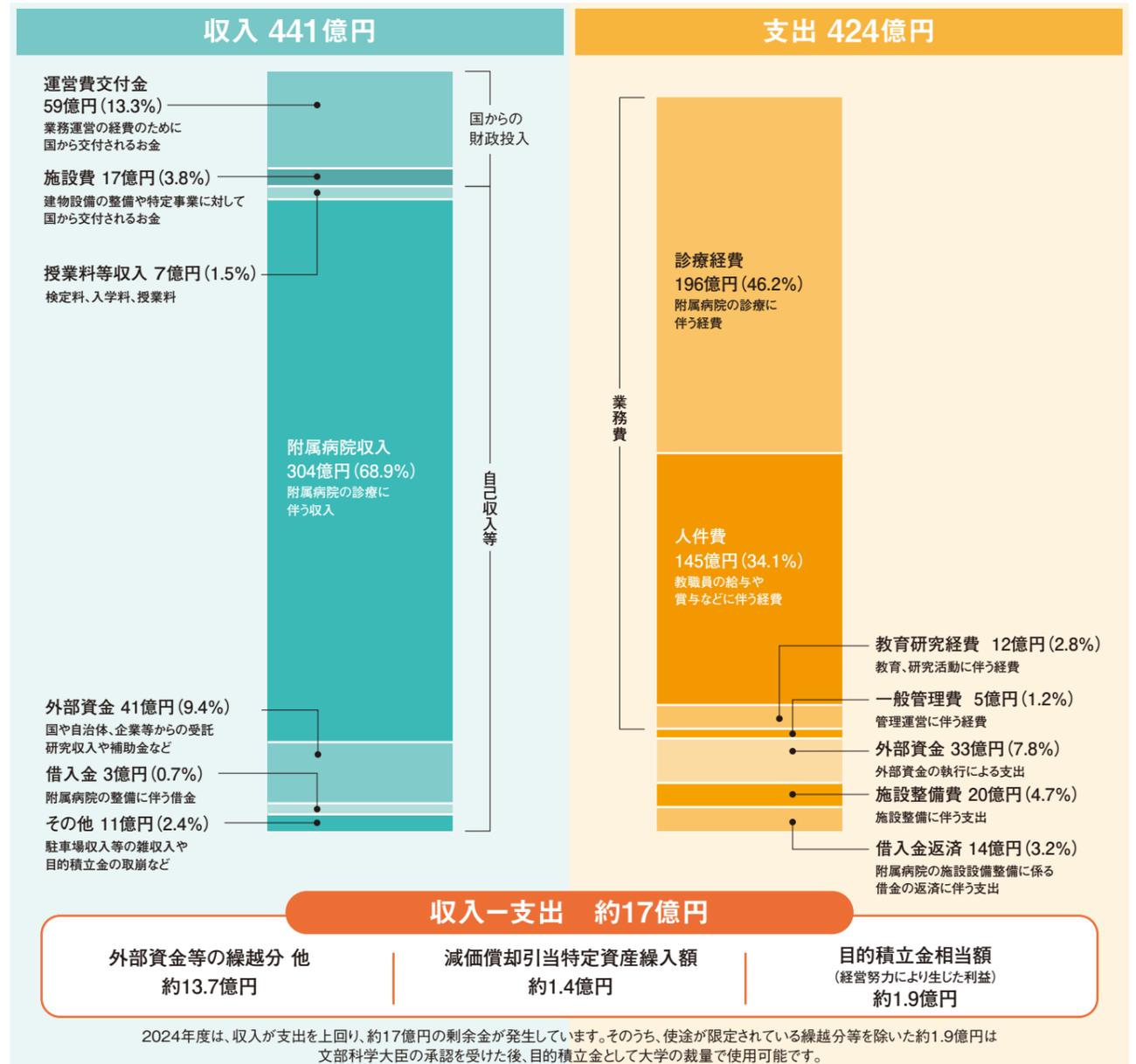
## 国立大学法人等の業務運営に関して国民の負担に帰せられるコスト

教育、研究、診療等の業務運営に関して、どれだけの費用(コスト)が国民の税金で賄われているか注記して表しています。業務に対する評価及び判断に資するものです。



## 決算報告書

決算報告書とは、国における会計認識基準に準じ、現金主義を基礎としつつ一部発生主義を取り入れて国立大学法人等の運営状況を収入・支出ベースで報告するものです。収入については、附属病院収入等の自己収入が運営資金の大半を占めています。また、支出については、業務費のほとんどを診療経費と人件費で占めています。

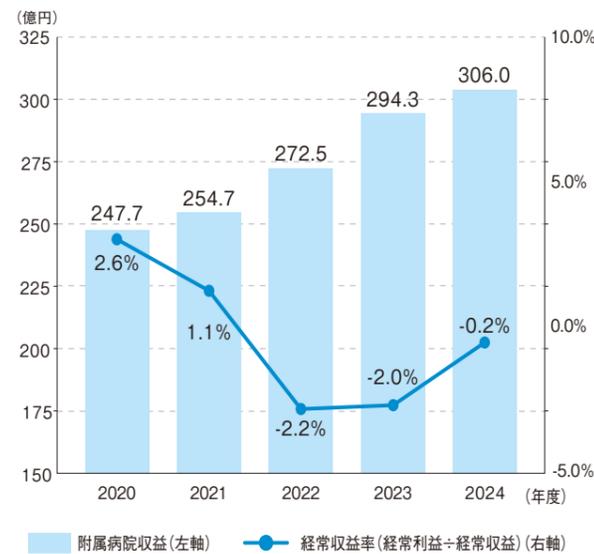


### 減価償却引当特定資産とは…

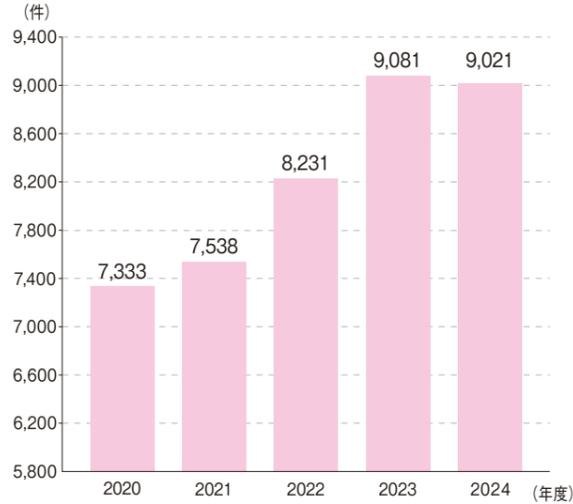
これまで国立大学法人では、運営費交付金や授業料などの収入は「単年度会計」で管理されており、年度内に使い切ることが前提となっていたため、建物の修繕や設備の更新などの将来の大きな支出に備えて法人の意思で資金を積み立てることができませんでした。しかし、大学及び附属病院の建物や設備は長期にわたって使用されるため、計画的な修繕や更新に向けた資金確保の仕組みが求められていました。そこで、文部科学省は2022年度に国立大学法人会計基準を改訂し、「減価償却引当特定資産」を含む引当特定資産の制度を創設しました。これにより、各法人の判断で戦略的に施設・設備の更新などのための資金を計画的に留保できるようになり、安定的かつ持続可能な法人運営が可能となりました。

附属病院の診療経費について、大学病院としてふさわしい高度な医療の提供に必要な高額な医薬品材料の使用増に伴い、前年度と比較すると医薬品費が6.5%（約5.6億円）増、診療材料費が1.8%（約0.9億円）増など、診療に必要な経費全体で4.1%増となっています。対して、病床稼働率は88.2%と前年度を上回り、手術件数も9,021件と2年連続で9,000件を超え100床当たりの手術件数は国立大学病院でもトップクラスをキープしており、病院収入は3.7%（約10.7億円）増となりました。水道光熱費等の高騰は一時期より落ち着いたものの、以前と比較すると引き続き高い水準で推移しており、さらに物価高騰や人件費上昇などが経営を圧迫しているため、病院収入の増加に向けた取組に加え、経費削減を恒常的に意識して調達方法の見直し等を継続し、安定的な経営に向けて努めてまいります。

附属病院収益及び経常収益率



手術件数

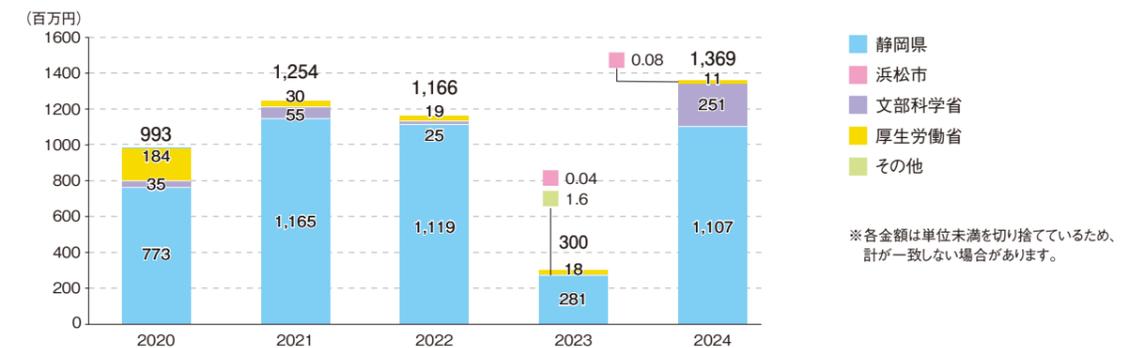


## 補助金の獲得状況

診療による病院収入以外にも、補助金は附属病院における貴重な収入源の一つで、交付元機関別にみると全体の約8割を静岡県から交付いただいています。新型コロナウイルス感染症が猛威を振るった2020年から2022年にかけての時期は、静岡県のほか厚生労働省から新型コロナウイルス感染症関連補助金により多くのご支援をいただき、収入の落ち込みや感染対策経費の増加を乗り越えることができました。

2022年度以降は静岡県の設備整備補助金などを更に積極的に活用し、先進機器の更新を行っています。2024年度に交付を受けた補助金で金額の大きいものとしては、文部科学省の高度医療人材養成拠点形成事業があげられます。これは2024年度から施行された医師の働き方改革の中においても、医師（研究者）の研究時間を確保し研究力を底上げするため2024年度～2029年度までの6年間にわたり交付される補助金で、臨床研究を支援・推進するための予算として活用することで、大学病院として更なる臨床研究の高度化に取り組んでいます。また、静岡県からは勤務環境改善医師派遣等推進事業により、医師の労働時間短縮に向けた取組を強化しました。

病院補助金受入額(交付元機関別)



新入院患者数、平均在院日数



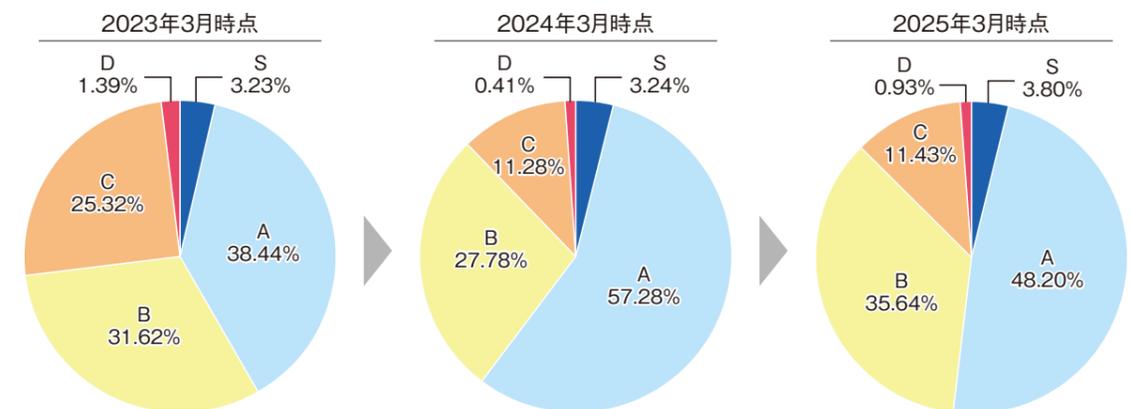
救急患者数、救急経路入院数



## 経費削減の取組

2022年1月から導入した医療材料ベンチマークシステムを活用し、製造業者及び販売業者との面談による医療材料等の購入にかかる価格交渉を2024年度も継続して行っています。医療材料ベンチマークシステムとは、同システムを利用している全国の医療機関の医療材料等の品目ごとの購入価格・購入数量を参照し、本院の価格と比較・分析することができるシステム（現在全国1000施設が利用）のことです。2024年度の価格交渉の結果、医療材料・医薬品の購入費について年間約1億7千万円の削減効果がありました。2025年度から地域医療連携推進法人浜松アカデミック・メディカル・アライアンス(HAMA)による共同価格交渉により更なる経費削減に取り組んでいます。

医療材料の取引金額構成比率



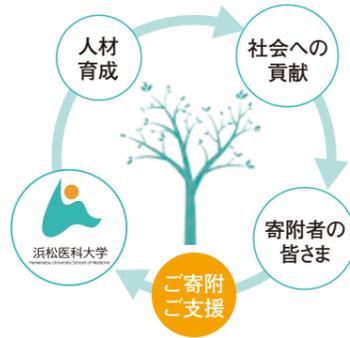
S:最小単価で購入 A:平均より低い単価で購入 B:平均単価で購入 C:平均より高い単価で購入 D:最大単価で購入

## 地域の皆様と共に未来を創る浜松医大

教育・研究・診療及び社会貢献活動を推進していくために募金活動を行うこととし、2016年7月「浜松医科大学基金」を設立しました。

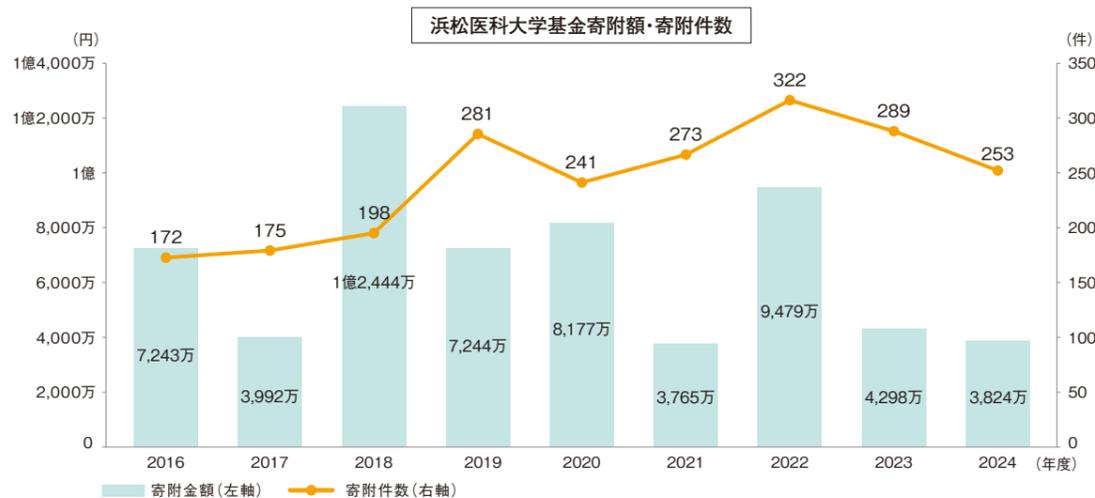
浜松医科大学基金によって、医学及び看護学の教育研究に打ち込める環境や様々な交流を行う機会を提供することにより、将来性豊かな多くの若者を優れた医療人や研究者に育てたいと思っています。

浜松医科大学はこれからも地域社会に貢献しつつ、本学の特色を世界に発信していきます。



### 浜松医科大学基金寄附額・寄附件数 (2025年3月末現在)

基金設立より、個人1,939件、法人・団体265件の皆様から  
6億466万円のご寄附をいただきました。



### 浜松医科大学基金の種類

浜松医科大学基金 ※支援項目を特定せずにご寄附いただくこともできます。

- テーマ1 教育研究活動への支援
- テーマ2 教育研究の環境整備とプロジェクトへの支援、キャンパス環境の整備充実への支援
- テーマ3 国際交流及びグローバル人材育成への支援
- テーマ4 附属病院への支援

#### 修学支援事業基金

経済的な理由により修学が困難な学生、障害のある学生への支援

#### 研究等支援事業基金

学生又は不安定な雇用状態にある研究者への研究等を支援

web 浜松医科大学基金については、ホームページをご覧ください。  
<https://www.hama-med.ac.jp/kikin/index.html>

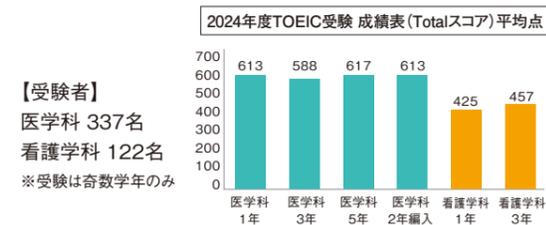


### 2024年度 浜松医科大学基金を活用した支援の実績

5,659万円

浜松医科大学基金の趣旨をご理解いただき、ご協力ご支援を賜りまして誠にありがとうございます。お寄せいただきました寄附金につきましては、ご意向に沿い、教育・研究・診療・社会貢献等に関する事業を一層充実させるために、有効に活用させていただきます。

#### TOEIC受験について支援



【受験者】  
医学科 337名  
看護学科 122名  
※受験は奇数学年のみ

在学中は、TOEIC受験をはじめ、英語教育を継続しています。国際性の観点だけでなく、異文化や人種等の多様性の理解に必須である英語の修学にも焦点を当てたカリキュラムを実施しています。

#### 再生医療に関する教育研究環境整備について支援

再生医療に関する教育研究環境整備のため、安全キャビネット、CO2インキュベーター、クロマトチャンバーなどの購入支援を行いました。



#### 研究プロジェクトへの支援

大学院生も含めた学内研究者に対して広く支援を行うことで、大学の研究力アップを図り、将来的な競争的資金等の獲得につなげるため、独自性の高い優れた研究プロジェクトへの支援を行いました。



#### 解剖実習室タブレット映像配信システム整備について支援

講義実習棟の改修に伴いリニューアルした解剖実習室において、視覚的資料を使った教育を行うためのタブレット映像配信システムの購入支援を行いました。



#### 学生の海外留学について支援

海外留学する45名の学生への支援を行いました。

##### 留学先

- 臨床実習…中国、韓国、ポーランド、ドイツ、米国、英国、スロベニア、フィンランド、オーストリア
- 研究留学…ポーランド、イタリア、ギリシャ、ドイツ
- 語学留学…米国
- 国際看護実習…韓国、米国

#### 留学生との意見交換会について支援

2025年3月「国際交流のつどい」を開催しました。(2025年3月現在、6か国、36名の留学生在籍)



## 皆様へ

「統合報告書2025」を最後までご覧いただき、誠にありがとうございます。

本学では2021年度から、これまで発行しておりました本学の取組と財務に関する年次報告書である「アニュアルレポート」を大きく見直し、本学の将来ビジョンに向けた取組と現在の進捗状況を、関係されるすべての皆様へ分かりやすく説明することを大きな目的として統合報告書を作成しています。

作成に当たっては、部署横断的組織であるIR (Institutional Research) 室が中心となり、昨年度いただいた皆様からのご意見・ご感想を参考に、将来ビジョンの5つの区分である教育、研究、医療、社会連携・地域連携、業務運営のこれまでの取組から掲載内容を選定し、あわせて、財務諸表等の財務情報を分かりやすい形に整理して構成しています。

この報告書を通して、皆様に本学のこれまでの取組と現在の状況、さらに将来への目標をお伝え出来たら幸いです。また本学に関係される多様な立場の皆様から、忌憚のないご意見をお待ちしています。

皆様との対話を通じて、本学の未来、新しい価値を創造してまいりたいと考えています。

2024年に本学は開学50周年を迎えました。学長をトップとしたガバナンス体制の下に、将来ビジョン達成に向けて、今後も教育・研究・医療の新たな取組、更なる業務効率化等の経営改革を職員一丸となって進めてまいります。

引き続き、ご支援ご鞭撻を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

理事(教育・評価担当)・副学長  
IR室長 梅村和夫



### アンケートへのご協力をお願い

統合報告書2025をお読みいただき、ありがとうございました。

本学は本報告書を通して、本学を支えてくださる皆様に大学の将来ビジョンや具体的な取組についてご理解を深めていただき、対話をしていくことで更なる改善を目指しております。

その一つとして、統合報告書2025をホームページに掲載して、Webアンケートを実施しておりますので、お気付きのことがありましたら、ご意見をいただけますと幸いです。

 統合報告書ホームページ・Webアンケート  
<https://www.hama-med.ac.jp/about-us/publication/zaimu.html>



[報告対象期間]

2024年度(2024年4月1日～2025年3月31日)を対象としています。ただし、必要に応じて当該期間の前後についても記載しています。また、財務情報の多くは、2024年度までの情報となっています。

## 浜松医科大学紹介の情報

### 情報公開と広報誌/刊行物のご案内

統合報告書2025は、本学の取組と財務情報から、本学の活動に関係されるすべての皆様に分かりやすい内容となるように集約編集したものです。より詳細な内容につきましては、本学ホームページに掲載しています。

#### 浜松医科大学ホームページ

<https://www.hama-med.ac.jp/>



#### 中期目標・中期計画等

<https://www.hama-med.ac.jp/about-us/mid-term-goal/>



#### 国立大学法人評価に関する情報

<https://www.hama-med.ac.jp/about-us/disclosure-info/eval-info/daigakuhyouka.html>



#### 財務諸表等

<https://www.hama-med.ac.jp/about-us/disclosure-info/financialinfo/financial.html>



#### 大学概要

<https://www.hama-med.ac.jp/about-us/publication/gaiyou.html>



大学概要

#### 環境報告書

<https://www.hama-med.ac.jp/about-us/mechanism-fig/safety-hygiene/er.html>



環境報告書

#### 大学広報誌『NEWSLETTER』

<https://www.hama-med.ac.jp/about-us/publication/newsletter/>



大学広報誌  
『NEWSLETTER』

#### 附属病院広報誌『はんだ山の風』

<https://www.hama-med.ac.jp/hos/about-us/journal/handayamanokaze/>



附属病院広報誌  
『はんだ山の風』